

その他の卸売業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
1999	2	11 ～ 12	顧客先へ行くためライトバンを走行中、緩い左カーブのアイスバーンで対向車線に飛び出して、対向してきたダンプカーと衝突した。	231	17	10～ 29
1999	2	9 ～ 10	車を横向きに立てフロントドライブシャフト、足回り部品をインパクトレンチを用い取り外す作業中に横向きに立てていた車が倒れてきて挟圧された。	521	5	1～9
1999	2	15 ～ 16	得意先に配達するパンの材料をワゴン車に積み込んで走行中、県道で中央線を越えてきた対向車に衝突された。	221	17	1～9
1999	3	7 ～ 8	飼料配達のため3トントラックで走行中、対向して来たトラックがスピンして飛び出して来たため、避けきれずに衝突した。	221	17	1～9
1999	3	13 ～ 14	病院への営業のため社用車で走行中、ハンドル操作を誤り右カーブを曲がりきれずに道路左側の水田に転落した。	231	17	10～ 29
1999	3	5 ～ 6	トラックで国道を走行中、センターラインを越え対向の大型トレーラーと正面衝突した。	221	17	50～ 99
1999	4	14 ～	休日出勤して、ショベルローダーで故紙を運搬しプレス機のコンベヤーへ投入する作業を行っていて、同僚の姿が見えなくなったので帰宅したもの	169	7	10～

		15	と思いその作業を引き継いだら、夕方にプレスの一つから衣服の一部が出ていたので開けて見たところ内部で同僚が死亡していた。			29
1999	4	16 ～ 17	3tトラックで活魚を市場へ運送中、ちぎれたタイヤが追い越し車線上にあったので先行の乗用車が急ブレーキをかけ、後続の大型10tトラックは急停止したが別の大型10tトラックが追突し、さらに3tトラックが追突した。	221	17	1～9
1999	4	19 ～ 20	会社に戻るため乗用車で走行中、運転を誤って道路脇のガイドロープ支柱に衝突し、頭部を打った。	231	17	1～9
1999	3	14 ～ 15	乗用車で国道を走行中、対向のタンクローリー車がセンターラインを越えてきて正面衝突した。	221	17	100 ～ 299
1999	5	9 ～ 10	2tトラックで青果を積んで国道を走行中、片側2車線の左側車線を時速40キロメートルで走行していたトレーラーに追突した。	221	17	10～ 29
1999	5	18 ～ 19	2トントラックに故紙を積んで走行中、小雨のため運転を誤りガードレールを突き破って約3m下の杉林に転落した。	221	17	1～9
1999	5	0 ～ 1	廃品置場で空缶の分別作業を行っていたところ、高さ1.1mの所に積んでいた電化製品を入れた重さ460kgの袋が崩れ、下敷きになった。	611	5	10～ 29
1999	5	11 ～ 12	トラクターを用いて耕作作業を行っていたところ、畑の端から約5メートル下の道路上にトラクターと共に転落した。	169	1	30～ 49
1999	6	15 ～ 16	鋼製の容器の底に残ったアルミ缶の塊を破碎機の投入口に投入するため、容器の中で作業をしていて破碎機のロールに挟まれた。	162	7	1～9

1999	4	4 ～ 5	自転車で市場内に配達した帰りに、交差点を信号が赤にもかかわらず進入したため、進行中のトラックにはねられた。	221	17	10～ 29
1999	6	16 ～ 17	高さ31mのビル屋上のパラペット脇の溝のゴミを取り除く作業を手すりの外側に出て行っていたところ、足を滑らして約27m下の1階底上に転落した。	418	1	100 ～ 299
1999	7	3 ～ 4	加工した惣菜を販売するため卸売市場に向って保冷車を運転中、センターラインを越えて走行してきたトラックと衝突した。	221	17	10～ 29
1999	4	10 ～ 11	営業活動のため車で走行中、トンネル内に落下物があったので、避けようとしてトンネル左側面に接触し、弾みで対向車線をオーバーして、対抗の4tトラックに正面衝突した。	911	17	300 ～ 499
1999	7	11 ～ 12	自動車道をワゴン車で走行中、前方を低速走行していた工事用大型作業標識車に追突した。	231	17	1～9
1999	8	8 ～ 9	2トントラックに青果物を積み走行中、片側一車線になったところで書類に気を取られて対向車線にはみ出してしまい、対向の大型トラックと正面衝突した。	221	17	1～9
1999	6	13 ～ 14	フォークリフトで道路を走行中、道路左側に寄りすぎ、約2.5メートル下の道路下にフォークリフトとともに転落し、下敷となった。	222	17	10～ 29
1999	8	15 ～ 16	当該事業場は、鉄スクラップ等を回収して販売する卸売業を営んでいる。災害は、澱粉工場設備の改修工事が出た廃品の回収中で、リフティングマグネット付車両積載型小型移動式クレーンで鉄くずを同機に積み込んで20mほどバックしたときに、後方に居た者を左後輪でひいた。	221	7	1～9
1999	8	9 ～	ごみ収集車で回収した古紙を降ろすためテールゲートを上げようとしたが上がらないため、同僚とともにごみ収集車の投入口より古紙を取り出して	229	7	1～9

		10	いたときに、突然、回転板が動き出して、回転板とホッパーに挟まれた。			
1999	8	6 ～ 7	卵を客先に配達するため普通貨物車で走行中、対向車線にはみ出しトラックと正面衝突した。	221	17	50～ 99
1999	7	4 ～ 5	7tトラック置場で目的地に到着し、瓦を積んでフォークリフト(最大荷重2050kg)で瓦を下ろしていて、トラックとフォークリフトとの間に挟まれているのを発見された。	222	6	10～ 29
1999	7	8 ～ 9	川砂の運搬船上で荷卸の補助作業を行っていたが、作業終了直後からの行方が分からなくなり、翌日運搬船周囲を捜索したところ付近の川底で水死体となって発見された。	416	10	1～9
1999	9	9 ～ 10	箱型トレーラーの荷台にプラスチックシートを打ち抜いたスクラップのロール状の荷(1個推定22kg)を1つのパレットに6個4段積んだものを奥行き方向に8列積み、重機の爪で押し込もうとしたところ一番手前の荷が12個が崩れて荷台上にいた者に激突した。	611	5	30～ 49
1999	10	15 ～ 16	船舶解体のためアセチレンガス溶断作業を各担当に別れて行っていたが、同僚の溶断作業中に出た火花が下の階の床に飛び火していたので、甲板の下に入り足で火を消そうとしていたところに甲板が落下し、その下敷きになった。	521	4	1～9
1999	10	15 ～ 16	工場内の骨材サイロ(直径8m、高さ21.3m)において、ロープの先に安全帯のフックをかけ垂直タラップを降りて一人で砂を落としていたところ、周りの砂に埋まった。	523	5	1～9
1999	10	10 ～ 11	建築工事において、鉄骨建て方中の3階部分にコンデンサーを設置するため、一人で高さ7.28mの梁(H鋼)の上に乗る、すみ出し作業を行っていたが墜落した。	415	1	30～ 49
1999	10	0 ～ 1	冷凍庫内の棚(4段目)の段ボール入り冷凍食品を整理するため、ピックアップフォークリフトに乗り、高さ約2.7mまで上昇して、運転台に設けられている可動式手すりを外した状態のまま作業したためコンクリート床に墜	222	1	50～ 99

			落した。			
1999	9	8 ～ 9	市場内の横断歩道で、同じ市場の事業場の従業員が運転する車両に跳ね飛ばされた。	231	18	1～9
1999	10	16 ～ 17	乗用車で出張のため自動車道を走行中、運転を誤り中央分離帯に衝突し、反動で後ろ向き状態で走行車線に戻ったところへ後続の大型トラックに追突した。	231	17	50～ 99
1999	11	0 ～ 1	トラックで走行中、昼食をとるため右折しようとしていたが、対向車があったので行き過ぎるまで停止して待っていたところ、後方から来た大型トラックに追突され、その衝撃でトラックが対向車線に飛び出し、大型ダンプに衝突した。	221	17	30～ 49
1999	10	9 ～ 10	店舗開店の応援のため車で走行中、路肩ガードレールを越えて、立木に激突した。	231	17	1～9
2000	3	0 ～ 1	国道をワゴン車に3名乗車して走行中、前方の除雪車を追い越そうとして対向のワゴン車と正面衝突し、対向車両の運転手が死亡し、3名が負傷した。	231	17	10～ 29
2000	1	12 ～ 13	業務を終え社用車(ワゴン車)で走行中、スリップして道路脇の電柱に激突し、後部座席で仮眠していた同乗者が死亡した。	231	17	1～9
2000	8	15 ～ 16	国道を2tトラックで走行中、緩い左カーブの所でセンターラインを越え、対向の10tダンプトラックと正面衝突した。	221	17	1～9
2000	4	15 ～ 16	事業場内の照明を消灯し、入口の自動シャッターの下降を開始させて入口を通り場外へ退出しようとしたときに転倒し、下降してきた自動シャッターに背部よりはさまれた。	999	7	30～ 49
		11	5階の倉庫において、脚立の上部より2段目(高さ1.4m)で棚上の商品を確認			100

2000	6	～ 12	していたときにバランスを崩して墜落した。	371	1	～ 299
2000	8	～ 21	営業用のライトバンで帰社するため自動車を走行中、橋の上で中央分離帯の欄干に衝突したため車外に放り出され、約40メートル下の沢に転落した。	231	17	1～9
2000	9	11 ～ 12	自動車の解体工場で、重さ7tのコンバインの前部にフォークリフトの爪を差し込み高さ1メートル24cmまで持ち上げ、後部は地面に付けたままの状態コンバインの左側面のボルトを外していたところ、コンバインが左側に横転し、作業を行っていた4名のうち1名だけが逃げ遅れて挟まれた。	612	5	1～9
2000	7	11 ～ 12	鉄くず等を圧縮機を用いてスクラップにする作業中、圧縮機のボックスに挟まれた。	169	7	1～9
2000	10	8 ～ 9	住宅の新築工事現場付近の道路において、材料を運んできた2tトラックを現場付近の道路上に止めトラックから降りたところ、突然トラックが動き出したので止めようとして前に行き押さえたが止めきれずに8mほど押されてしまい、後方にあった立ち木との間に挟まれた。	221	17	1～9
2000	3	8 ～ 9	取引先の製本工場で古紙のブロック(製本屑をプレスしたもので、重さ50～150kg)をフォークリフトでトラックに積み込む作業中に、荷が倒壊してフォークリフトとの間に挟まれた。	222	5	10～ 29
2000	9	21 ～ 22	出張先から帰社するために乗用車で自動車道を走行中、激しい雨でスリップしてガードレールに激突し車外に放り出された。	231	17	30～ 49
2000	1	4 ～ 5	2tトラックからバナナを降ろす作業中に、トラックの横に置いてあったフォークリフトの前面マスト部と本体との間に転落し、そのときにマストの引き起こしの操作レバーを作動させてしまったためマストと本体との間に頭部をはさまれた。	222	7	50～ 99
		19				10～

2000	10	～ 20	国道を走行中、前方を走行していたトラックに追突した。	221	17	29
2000	4	9 ～ 10	大型トラックで国道を走行中、対向の軽乗用車が道路左側の空き地でUターンして反対車線に進入してきたため道路中央部付近で衝突した。トラックは反対車線を横切ってガードレールを突き破り、10m下の河川敷に転落した。	231	17	1～9
2000	4	9 ～ 10	倉庫内で「ツキ板」の検品作業を行っていたときに、ツキ板のはいが、高さ4m・奥行2mに渡って崩壊し、1名は床に頭部を強打し死亡、他の1名は負傷した。	611	5	1～9
2000	6	18 ～ 19	3tトラックのパワーゲートを使ってドリンク剤21ケースを入れた籠台車(100kg超)を積み込んでいるときに、パワーゲートと荷台の隙間(6cm)に車輪が挟まったので外そうとしていたところ、籠台車がパワーゲートから落ちて籠台車を荷台と反対側から支えていた者に倒れ掛かってコンクリートの床に荷をかぶる形で倒れた。	362	4	10～ 29
2000	2	11 ～ 12	乗用車で高速道路を走行中、見通しの悪い右カーブで渋滞で停車していた14t大型トラックに追突した。	231	17	1～9
2000	8	8 ～ 9	商談にいくため車で自動車道を走行中、法面に乗り上げ道路左側の標識及びガードレールに衝突して車が横転、大破した。	231	17	10～ 29
2000	10	7 ～ 8	会社より建材の積込のためトラックで国道を走行中、ハンドル操作を誤って道路右側のフェンスを突き破り立ち木に衝突した。	221	17	10～ 29
2000	7	9 ～ 10	袋入りの鰻の肝を配達するためにスロープに車を止めて降りたところ、車が動き出したためフロント部を押して止めようとしたが止まらずにひかれた。	231	6	1～9
		16				10～

2000	1	17	トラック(4. 25t積)荷台の配送用木材の上から墜落した。	221	1	29
2000	12	13 ~ 14	営業のために国道を走行中、反対車線にはみ出したために対向の車と正面衝突した。	231	17	1~9
2000	11	10 ~ 11	簡易リフトで商品1缶(17kg)を倉庫に上げるため、自らも搬器に乗って上昇中に、2階の積込口(2階床)と搬器の先端との隙間に頭部をはさまれた。	214	7	1~9
2000	12	15 ~ 16	営業セールスのため自動車で行く中、交差点で赤信号のため停車していた大型トラックに追突した。	231	17	30~ 49
2000	11	13 ~ 14	同僚と2人で貯木場の木材の整理作業中に水中に転落した。	713	10	30~ 49
2000	8	14 ~ 15	軽乗用車で建築用材料等を受け取りに行くため走行中、車線をはみ出して対向のトラックと衝突した。	231	17	1~9
2000	12	9 ~ 10	H鋼4本(12m1本と9m3本)をフォークリフトで4tトラックに積み込んでいるときに、フォークからH鋼(12m)が落下したため、トラック上で補助を行っていた者がH鋼とともに荷台から1. 15m墜落した。	222	1	10~ 29
2000	6	18 ~ 19	乗用車で自動車道を走行中、道路右側の高架橋の橋脚部に衝突した。	231	17	100 ~ 299
2000	8	17 ~ 18	敷地内を歩行中、後退してきた4tトラックにひかれた。	221	18	30~ 49
		14	県道を軽貨物乗用車で走行中、対向車線にはみだし、対向のダンプカーに			

2000	12	～ 15	衝突した。	231	17	1～9
2000	1	8 ～ 9	リフターの調子が悪かったので下からのぞきこんで点検していたときに、突然リフターが落ちてきて下敷きになった。	219	7	10～ 29
2000	6	18 ～ 19	自社ビルの屋上駐車場から同僚の車を昇降設備で降ろすため、搬入口を開いていたとき、搬入口から昇降路内を7.65m下へ墜落した。	418	1	10～ 29
2001	1	5 ～ 6	白菜の収穫のため乗用車で走行中、途中の道路がシャーベット状になっていたため車がスリップし、半回転してガイドロープの支柱に激突した。	231	17	10～ 29
2001	3	11 ～ 12	トラック(クレーン搭載型)で、廃車をトラックの荷台へ積込む作業中、ワイヤーの玉外しを行っているときにバランスを崩し、荷台側面のあおりから転落した。	221	1	10～ 29
2001	3	9 ～ 10	同僚と2人でトラックへ荷物の積込みを終え荷物の点検を行っていたときに、後方からきた軽トラックにはねられた。	221	17	1～9
2001	3	0 ～ 1	客の注文により冷凍庫内へ商品(重量5kg1個)を取りに行ったまま戻ってこないの見に行くと鼻血を出して倒れていた。(他の商品等を足場にしながら上がろうとして転落したものと推定)	419	1	1～9
2001	1	11 ～ 12	空瓶の回収作業で、空瓶を入れてある路上のボックスをトラックの荷台に積み込むためトラックを停車し運転席を離れたときに、停車してあったトラックが動きだしたため、それを止めようとしてトラックに乗り込もうとしたが間に合わず、トラックと付近にあった電柱との間に挟まれた。	221	6	10～ 29
2001	2	8 ～ 9	車で取引先に向う途中、左壁に接触した反動で右側の中央分離帯に衝突し、車が炎上した。	231	17	50～ 99

2001	5	18 ～ 19	建売住宅建設現場において、既に納入されている建材を建屋の2階部分に上って確認し、降りようとしたときに地面まで墜落した。	418	1	30～ 49
2001	5	10 ～ 11	トラクターショベルで4段に積まれていた材の束のうち一番上の材の束を降ろしていたときに異常があったので途中で止め、エンジンをかけたまま運転席から降りて材の束の前方に回ったときに、トラクターショベルが動き出し、積まれていた材の束とトラクターショベルで降ろしていた材の束との間に挟まれた。	141	7	10～ 29
2001	5	9 ～ 10	大型トラックで県道を走行中、大型トラックが右カーブを曲りきれずに左側の縁石に激突し、その勢いで対向車線に進入し対向車に激突した。	221	17	10～ 29
2001	6	16 ～ 17	卵の洗浄パック詰め工場の屋根上にあるクーリングタワー配管のシーリングが劣化して、雨漏りするようになったので、補修するため屋根に上がって作業中に墜落した。	371	1	10～ 29
2001	6	2 ～ 3	トラックで高速道路を走行中、前方に速度の遅いトラックが走行していたため追い越そうとしたところ、乗用車が三車線の真中の車線を並ぶようにして走行していて追い越すことが出来ず、そのまま前方のトラックに追突した。	221	17	0
2001	2	10 ～ 11	倉庫内に設置された簡易リフトを用いて商品を2階に運ぶ作業中、リフト搬器の天井部分とリフト積卸口との間に首をはさまれた。	214	7	1～9
2001	6	14 ～ 15	回収した段ボール及び新聞紙をトラックで営業所まで運び、段ボールの荷崩れ防止に使用したロープを片付けしていたときに、他の労働者が運転するトラクターショベルがバックしてきてひかれた。	141	6	1～9
2001	7	20 ～ 21	ビルは地下部分が駐車場で、同僚が自分の車を出そうとリフトを操作したところシャッターが閉まったため地下駐車場内に閉じ込められそうになったが、同僚が気づきリフトを停止させようとしたときに誤って消火設備のボタンを押したため地下に二酸化炭素が充満し酸欠となった。	714	12	50～ 99

2001	7	10 ～ 11	乗用車で走行中、信号のない交差点内で走行中の車と衝突し助手席側から車外に放り出された。	231	17	1～9
2001	6	9 ～ 10	事業所内のごみ集積場において一般ごみの入った箱(180cm×90cm×91cm、ベニヤ製)をフォークリフトで持ち上げ、箱の中に入って横付けしたトラックの荷台へごみを移し替えていたとき、箱がフォークリフトのフォークからずり落ちたため箱とともに地上に墜落し後頭部を強打した。	611	1	1～9
2001	7	13 ～ 14	クレーンの月例検査中に、1台のクレーンの操作ボタンに損傷を発見し、工場内の電源を落として部品の交換を行ったのちに感電した。	211	13	1～9
2001	7	11 ～ 12	廃タイヤからホイールを取り外すため、インパクトレンチでホイール取付部のボルトを外していたところ、タイヤチューブがバーストし、外れたホイールにインパクトレンチの回転力が加わってホイールが回転しながら飛来し、顔面を直撃した。	521	4	1～9
2001	8	16 ～ 17	住宅設備機器の配送が終了し2tトラックで国道を走行中、対向の乗用車がカーブを曲がりきれずにセンターラインをはみ出してきて衝突した。	221	17	10～ 29
2001	7	10 ～ 11	配達先で荷物を降ろしトラックで走行中、左側ガードレールに接触し、360度回転しながら中央ガードレールに激突するまでの間に車外に投げ出され、頭を強打した。	221	17	10～ 29
2001	9	8 ～ 9	古紙梱包作業場において、古紙の選別の作業場に入りコンベヤー下部の古紙投入場所で倒れ、そのまま機械に運ばれ古紙とともに圧縮梱包機で圧縮された。	169	7	10～ 29
2001	6	16 ～ 17	販売した通信機器のアフターフロー業務を終え軽ワンボックス車で国道を走行中、交差点を右折する車に続いて青信号中に右折しようとしたところ、前方より直進して来た4tトラックと側面衝突した。	221	17	50～ 99

2001	2	12 ～ 13	ホストコンピューターシステム統合のためのプログラムを連日深夜に及ぶ時間外勤務を続け、稼働後に不具合が発生したのでメンテナンスを行っていたが、持病の喘息が急激に悪化した様子で体調不良を訴えたので病院に移送したが呼吸不全で死亡した。	921	90	300 ～ 499
2001	10	15 ～ 16	営業所の倉庫通路において、雨漏りの原因となるゴミを取り除くため塩化ビニール波板屋根に上ったときに屋根を踏み抜き地上まで5.62m墜落した。	415	1	1～9
2001	10	19 ～ 20	社用車で出張し会社へ戻るため国道を走行中、前方の赤信号で停止していた大型トラックに気付かず追突した。	231	17	100 ～ 299
2001	10	5 ～ 6	活魚車(5tトラック)で漁協からイカを仕入れて自動車道を走行中、右に緩いカーブで道路左側の法面に乗り上げ横転した。	221	17	1～9
2001	10	13 ～ 14	吊り上げ荷重2.8tの門型クレーン(床上操作式)でトラック荷台から10cm角の鉄製角パイプ23本の荷卸しをしていたところ玉掛ワイヤロープ(直径10mm)が切断し、クレーン操作を行っていた者が荷の下敷きになった。	372	4	50～ 99
2001	10	4 ～ 5	魚の競売場に行くため他の労働者の運転する自動車に同乗し、競売場の付近の国道で途中下車して道路を横断していたところトラックにはねられてた。	221	17	1～9
2001	11	9 ～ 10	資材置場で、トラックの荷台から鉄くずをマグネット付きの重機で荷降ろし重機のブームを荷台上に戻そうと旋回したときに、ブームの先端が鉄くずの山に積み上げてあった廃棄済みのエアコンの室外機(重さ約100kg)にあたりが落下して荷台の外から鉄くずの仕分け作業をしていた者に激突した。	521	4	1～9
2001	10	10 ～ 11	中2階倉庫において、空容器から酸の漏れによる錆びを止めるため床、天井の金属部にペンキを塗っているときに昇降用アルミ製梯子から墜落した。	371	1	1～9

2001	12	5 6	冷蔵庫内の冷凍食品を取るためピッキングフォークリフト(最大荷重700kg)に乗って高さ約4.35mまで登り、冷凍食品が載っている棚に乗り移るためパレット上に2段積みしてあった冷凍食品(とうもろこし)の箱に足をかけたところ、箱が揺れたためバランスを崩し、コンクリート床に墜落した。	611	1	30~ 49
2001	9	15 16	車の解体作業において、横倒しにしてあった乗用車(重量約300kg)からレンチで車底部の部品を回収するためネジを外していたときに乗用車が倒れ、その下敷きになった。	231	5	1~9
2001	11	11 12	営業のため乗用車で自動車道を走行中、対面交通道路上で反対車線に飛び出し、対向のトラックと正面衝突した。	231	17	10~ 29
2001	12	13 14	営業を終え社有車で国道を走行中、緩やかな下り坂で凍結路面のためスリップしてセンターラインをはみ出し、対向のトレーラーに接触したのち後続のトラックに衝突した。	231	17	10~ 29
2002	1	13 14	最大荷重2.5tのフォークリフトで、事業場敷地内の伐採した木の切り株をつり上げた状態で走行中、路肩段差(約23cm)のところでフォークリフトが転倒し、フォークリフトと地面との間に挟まれた。	222	2	1~9
2002	1	13 14	年始挨拶のため会社の乗用車で走行中、凍結路面のためスリップし対向車線にはみ出してトラック後部に衝突し、横滑りとなってトラックの後続車の軽乗用車と衝突した。	231	17	10~ 29
2002	4	19 20	顧客先から会社に戻るため自動車道をワゴン車で走行中、中央分離帯に衝突し車が全焼した。	231	17	10~ 29
2002	3	10 11	簡易リフトで倉庫3階フロアから1階へゴム長靴を梱包したダンボール箱3個を出庫する作業中、リフト搬器内において動き出した搬器とフロアとの間に胸部を挟まれた。	214	7	50~ 99
		8	荷卸しを終えて帰社のためトラックで国道を走行中、対向車がセンターラ			10~

2002	2	～ 9	インを越えてきて正面衝突した。	221	17	29
2002	3	3 ～ 4	出張業務が終了し乗用車で自動車道を走行中、後続のトラック（10 t 車）に追突された。	231	17	1～9
2002	3	19 ～ 20	出張を終え事務所に帰るため県道を乗用車で走行中、片側一車線の高架上で対向車線を走行していたトレーラーと衝突した。	231	17	100 ～ 299
2002	4	10 ～ 11	運送業者が運搬してきた積み荷（ヨシズ）をトラック（10 t、平ボディ）の荷台から降ろす作業中、積み荷の上（高さ約3m）から足を滑らせ地上に墜落した。	221	1	1～9
2002	3	8 ～ 9	トラックの荷台上でフォークリフトから荷を積み終えたフォークリフトのマストを伝って運転席に降りようとしたときに、マストを前傾させるチルトレバーに足をかけたためマストが前傾し、マストとヘッドガードとの間に腹部を挟まれた。	222	7	10～ 29
2002	4	11 ～ 12	大学食堂に卵の配達に行きトラックの荷台上で仕分け作業をしていたところ、トラックが後退したので飛び降りトラックに轢かれた。	221	6	10～ 29
2002	4	16 ～ 17	液体酸素充填場において、ボンベに液体酸素を充填し95cm下の舗装された地上へ移動させる作業中、墜落して左側頭部を強打した。	418	1	30～ 49
2002	5	15 ～ 16	自動車解体現場において、ドア部が外された乗用車をフォークリフトのフォークで持ち上げ、その真下に潜り込んで部品を取り外していたところ、車体が落下して下敷きになった。	222	4	1～9
2002	3	9 ～ 10	事業場2階で菓子（ポテトチップ・せんべい）等の品揃えの作業が終わり、下に降りようとして梯子から転落した。	371	1	1～9

2002	5	9 ～ 10	パワーショベルの解体作業でショベルのアームと車体をガスで切断し、その後アームが倒れ落ちる場所を整理していたときに、アームと車体が完全に切断されていたためアームが倒れその下敷きになった。	521	5	1～9
2002	5	21 ～ 22	立体駐車場において、管理人が所在不明となったので整備業者らが捜索していたところ、地上階と地階をつなぐハシゴの直近で地下4階（最下階）床面に倒れているのを発見した。（客が落とした眼鏡を回収するためハシゴを昇降していたと推定される。）	418	1	10～ 29
2002	10	4 ～ 5	同僚と普通貨物自動車で市場で仕入れを終えて事業場へ帰る途中、運転手が居眠りをしたため路肩に停車していた大型貨物自動車に追突し、助手席の者が死亡した。	221	17	10～ 29
2002	6	11 ～ 12	ガラス容器をリサイクルするためコンベア上でガラスの色ごとに選別してロータリークラシャーで破碎作業中、ロータリークラシャーから雑音が聞こえてきたので、ロータリークラシャー上の異物を取り除こうとロータリークラシャーに近づき巻き込まれた。	162	7	30～ 49
2002	6	16 ～ 17	4tトラックでスクラップ品をスクラップ場まで運搬し荷を括っていたワイヤーをほどいたところ、スクラップ品の一つである車をトラックに載せて運ぶための荷台がトラックの荷台から落下し、その下敷きになった。	611	4	1～9
2002	6	11 ～ 12	交差点でトラックと衝突した乗用車が事務所に突っ込んできて事務室内の机で事務処理を行っていた者に背後から激突し、机と車との間に挟まれた。	231	17	10～ 29
2002	7	13 ～ 14	軽自動車で営業のため国道を走行中、対向の4tトラックが中央分離帯を乗り越えてきて衝突された。	221	17	10～ 29
2002	8	9 ～ 10	貨物用トラック（最大積載量4.5t）でH形鋼5本（長さ12m、合計約2t）と軽量鉄鋼等を運搬し、荷降しスペースを空けるため工場前の駐車場にトラックを停車し荷卸の段取りをしていたところ、駐車場横を通った10tダンプの運転席上部に鋼材が引っかかったため鋼材が跳ね飛ばされ、トラック横にいた者にあたった。	221	4	1～9

2002	7	18	翌日出荷する冷蔵庫内の荷の確認作業を行っていたときに、冷蔵庫の入口	391	7	10～ 29
		～	の鋼製電動扉（高さ2m、幅2m）が閉まったため、胴体を冷蔵庫の外側、			
		19	頭部を冷蔵庫の内側の状態で挟まれた。			
2002	8	17	軽トラックに商品を積んで走行中、信号のない市道交差点で乗用車と出合	231	17	10～ 29
		～	頭に衝突した。			
		18				
2002	8	11	トラックに商品を積み自動車道を走行中、作業中の道路維持作業車に追突	221	17	1～9
		～	した。			
		12				
2002	8	11	倉庫内の床清掃に邪魔になる木材の束を2.5tのフォークリフトにより屋外	222	1	10～ 29
		～	へ仮置きする作業で、最初に運び出した木材の上に次の木材を載せるため			
		12	運転席を降りて最初の束の上に台木を置き、再びフォークリフトの運転席			
			へ乗り込もうと前輪カバーに足をかけたときに転落して頭部をアスファル			
			ト床に強打した。			
2002	10	0	ガソリンスタンドで保冷車に給油しその場で洗車を行っていたところ、保	221	7	10～ 29
		～	冷車が動き出して（エンジンは動いていなかった）道路を横断し堤防に衝			
		1	突しそうになったので、それを制止しようと保冷車の前方に回り込んで保			
			冷車と堤防との間に挟まれた。			
2002	2	4	ワゴン車で国道走行中、センターラインを越えてきた対向車と衝突して運	221	17	10～ 29
		～	転席が下敷きになった。			
		5				
2002	10	13	廃車となった中古車をトラック積載型移動式クレーン（吊上荷重2.93 t）	372	4	1～9
		～	でトラック荷台へ積み込むため、ワイヤーロープ（直径10mm）を中古車			
		14	に玉掛けして約1.2mまで吊上げたときに、掛けていたワイヤーロープが			
			切断して中古車が落下し下敷きになった。			
2002	11	16	客先での営業を終えてトラックで走行中、前方の追突事故を目撃して減速	221	17	1～9
		～	した乗用車に追突し、さらに前方の事故車両に衝突して横転した。			

		17				
2002	4	17 ～ 18	フォークリフト（最大荷重0.43 t）で入荷商品を所定の棚に収納して いて、パレットと3段目棚板（高さ3.2m）を跨いで缶詰の箱（約20 k g）の 積替えをしていたときに、バランスを崩してコンクリート床に墜落した。	222	1	10～ 29
2002	11	0 ～ 1	量販店に荷物を納入するため3階の荷物用エレベーター前まで一人で荷を 運んでいたときに、突然大きな音が聞こえたので同じフロアにいた部長が エレベーター前まで見に行ったところ、エレベーターの扉が開いてい ピットの底に荷物とともに倒れているのを発見した。	214	1	1～9
2002	12	9 ～ 10	軽ワゴン車で牛乳の配達を終え国道を走行中、中央線を越えて対向のタン クローリー車と正面衝突した。	231	17	1～9
2002	12	14 ～ 15	医薬品調達のためトラックで走行中、トンネル内の多重衝突事故に巻き込 まれた。	231	17	10～ 29
2002	12	16 ～ 17	勾配（10度）の住宅の進入路にトラック（1.5 t）を停車し、後部ドアを 開けて荷物を取り出そうとしたときに、トラックが後進して車体に巻き込 まれた。	221	7	10～ 29
2002	12	16 ～ 17	倉庫内でフォークリフトにより荷物を運搬中、メインマストとリフトブラ ケットとの隙間に頭部を入れて積荷の状況を確認しようとしたときに、リ フトレバーに体の一部が触れたためフォークが上昇し頭部をはさまれた。	222	7	30～ 49
2002	11	17 ～ 18	地面に置いていた鉄函（積み重ねたもので高さ約1.8m）の前を通り抜け ようとしたとき、上積みの鉄函が傾いて脇にあった別の鉄函との間に挟ま れた。	611	5	1～9
2002	5	15 ～ 16	乗用車で取引先に商品を配達して県道を走行中、センターラインをオー バーして対向の大型トラックと正面衝突した。	231	17	10～ 29
		19	自動販売機への商品供給等のためトラックで首都高速道を走行中、他の首			10～

2002	12	～	都高速道から車輛が強引に合流してきたため、トラックがこの車輛に追突した。	221	17	29
2003	1	～	4tトラックに積込み作業終了後、プラットホームから離そうとした時に商品を落下させてしまったので、落下した商品を積込むためトラックを停めてトラックとプラットホームの隙間に屈んだときに、サイドブレーキをかけていなかったためトラックが後進し、トラックとプラットホームの間にはさまれた。	221	7	50～ 99
2003	1	22 ～ 23	4tトラックで商品配送のため道路を走行中、左カーブで右側路肩ガードレールに接触・横転し、車体とガードレールとの間にはさまれた。	221	17	1～9
2003	1	～	機械式ゴミ収集車（最大積載量2.75t）で古紙回収作業に出掛け、帰社時間になっても帰らないので、管理者が回収場所に向いて収集車を調べたところ、収集車の内部で死亡していた。	221	7	10～ 29
2003	1	～	事業場敷地内で、パイプ用の荷積み台に積み上げてあった塩化ビニル製パイプにアルミ製はしごをかけ、パイプ（もしくははしご）の上に乗ってパイプの在庫を調べていたときに、何らかの原因で転落した。	371	1	10～ 29
2003	2	11 ～ 12	ショベルローダーで回収された段ボールをコンベヤに投入する作業中に、エンジンを切らずギアをバックに入れた状態でショベルローダー運転席から降りて、約9m離れた建屋の柱付近にいたときに、後進してきたショベルローダーと柱との間にはさまれた。	229	7	1～9
2003	2	7 ～ 8	会社に出勤してきたとき、別の者が門扉をフォークリフトで開く作業を行っていて、その鉄製門扉が倒れてきてはさまれた。	418	5	1～9
2003	2	20 ～ 21	ダンプカーのタイヤの交換作業で、タイヤをホイールにセットしエアを充填したがエアが抜けているので、漏れ個所を確認するため2.9tのトラッククレーンでタイヤを1.5mつり上げ、下に入って漏れを調べるためハンマーでたたいていたときに、つり具が外れタイヤが落下した。	372	4	1～9

2003	2	10 ～ 11	ガス配管作業で、ガス管のねじ切り作業中に作業服がねじ切り機に巻き込まれ、巻き込まれた作業服により首が締めつけられて窒息死した。	159	7	1～9
2003	3	9 ～ 10	高さ1.2mのプラットホームから空ダンボールをごみ収集車のホッパーに投入していて、ごみ収集車のテールゲートから誤ってホッパー内に転落し、回転板に巻込まれた。	229	7	10～ 29
2003	3	0 ～ 1	乗用車で走行中、ゆるい左カーブを直進してセンターラインをオーバーし、対向車（4tトラック）と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2003	4	17 ～ 18	駐車場に荷物を取りに行くため、交差点を青信号で横断中に右折してきた乗用車にはねられた。	231	17	30～ 49
2003	4	23 ～ 24	出張での仕事を終えて直接自宅へもどるため自宅近くの道路を渡っていたときに、乗用車にはねられた。	231	17	10～ 29
2003	5	20 ～ 21	おがくずをトラックに積込むため、おがくずサイロ2階に上がって、角材およびスコップで突いてピットからトラック荷台におがくずを落とす作業中に転落し、サイロ内でおがくずに埋まった。	418	1	1～9
2003	5	19 ～ 20	営業活動を終えて社用車で高速道路を走行中、スリップして追い越し車線の上に停車していたところへ、後続の2台の貨物自動車に衝突された。	221	17	1～9
2003	5	16 ～ 17	古紙を攪拌（かくはん）機へ運搬するベルトコンベヤ上で、古紙を結束していた紐を鎌で切り取っていてベルトコンベヤ上から攪拌（かくはん）機部分へ転落し、攪拌（かくはん）機に巻き込まれた。	169	7	1～9
2003	6	18 ～ 19	工場に出たごみが簡易リフト（積載荷重200kg）の昇降路内の搬器の脇に約2m積みあがっていたのに、さらにその上にごみを積もうとして搬器に乗り込んで上半身を搬器から乗り出して操作ボタンを押したときに、搬器	214	7	1～9

			と鉄棒との間に頭をはさまれた。			
2003	6	10 ～ 11	農業用資材の営業のためバンで走行中、町道交差点で出会い頭にワゴン車と衝突した。	231	17	10～ 29
2003	6	8 ～ 9	卸売市場内で、共用冷蔵庫内部においてはしごから墜落し、倒れている作業者が発見された。	371	1	1～9
2003	6	0 ～ 1	営業を終了して会社のライトバンで国道を走行中、緩い左カーブで対向車線にはみ出し大型トラックと衝突した。	221	17	10～ 29
2003	7	5 ～ 6	1.5tトラックで国道を走行中、路肩に停車していた大型トラックに追突した。	221	17	1～9
2003	7	13 ～ 14	巻尺機（けんじゃくき）で電線を切断する作業を行っていたところ、スイッチの調子が悪く動作しなかったのでスイッチボックスを開けて具合の悪い個所を探していたときに、トランスの金属部分の被覆が一部はがれていたため、そこに触れて感電した。	352	13	100 ～ 299
2003	7	22 ～ 23	自動車のオークションで購入した社用の大型トラックを運転して走行中、道路脇に停車していたパトロール車に追突して運転席から投げ出された。	221	17	50～ 99
2003	8	9 ～ 10	積載形トラッククレーン(つり上げ能力2t)を坂に止め、石材135kgを積んでトラッククレーンに乗ろうとしたときにトラッククレーンが動き出したので、トラッククレーンを止めようとハンドル操作を試みたが道路斜面で転倒し頭部を強打した。	212	2	1～9
2003	8	11 ～ 12	小型冷凍車で食材の配達を終えて国道を走行中、渋滞で停車していた前方のトラック（4t車）に追突した。	221	17	10～ 29

2003	9	0 ～ 1	玉子のケースを地下街にある得意先へ配達のため歩行中、階段の上から3段目で足を滑らして約24段下まで転落した。	413	1	1～9
2003	9	5 ～ 6	保冷車で市場に魚を配送して帰社途中、交差点で乗用車と出会い頭に衝突し車外に放り出された。	221	17	30～ 49
2003	9	11 ～ 12	赤松の皮むき作業において、ホイール・ローダーで皮むきが終わった木材の寸法を測定したのち、ホイール・ローダーを車庫に入れるため、バックさせたときに後方にいた者をひいた。	141	6	10～ 29
2003	9	10 ～ 11	ビルの地下駐車場で、ワゴン車の運転席のドアを開けながらバックで駐車しようとしたときに運転席側が壁の角に衝突し、その際に右半身を強打した。	231	3	50～ 99
2003	10	17 ～ 18	積んであった結束鋼管と結束鋼管の隙間に半身を入れて鋼管の製造メーカーを確認しているときに、片側の結束鋼管（1本の鋼管寸法：口径216.3mm×肉厚5.8mm×長さ12m、結束本数7本、総質量2.527t）が荷崩れして上半身をはさまれた。	521	6	10～ 29
2003	10	20 ～ 21	派遣社員が出張で、宿泊予定のホテルに向うため車を運転して自動車道を走行中、前方不注意による自損事故を起こした。	231	17	10～ 29
2003	10	11 ～ 12	倉庫内で、フォークリフト（最大荷重3t）で牧草（一束の大きさは約40cm四方でその重さが約40kgのものを通常12～24個ごとにビニール等で1パックにしたもの）の運搬を行っていたときに、積み上げられていた牧草が崩れ下敷きになった。	611	5	1～9
2003	12	5 ～ 6	配達先から営業所へもどるためトラックで国道を走行中、センターラインを越えて対向の大型トレーラーと衝突した。	221	17	1～9
		1	青果物を市場に運搬するため4tトラックで国道を走行中、交差点で信号待			

2004	10	～ 2	ちのため停車中のトレーラーに追突し、車内に閉じ込められた。	221	17	1～9
2004	3	16 ～ 17	社用車で国道を走行中、対向車線にはみ出し、対向して来た車両と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2004	3	8 ～ 9	会社の車で、国道を走行していたところ、対向車線からはみ出してきたダンプカーと衝突した。	231	17	1～9
2004	6	9 ～ 10	会社の車を運転中、運転操作を誤り道路左脇の防風ネットに衝突し、ネットを支えていた単管がエンジンルームを突き破り、助手席に乗っていた被災者に激突した。	231	17	10～ 29
2004	9	14 ～ 15	軽自動車で、県道を走行中に対向車線にはみ出し、対向してきた大型車と正面衝突した。	231	17	10～ 29
2004	3	19 ～ 20	ワゴン車で走行中、片側1車線の道路の左カーブにおいて、対向車と正面衝突した。	231	17	30～ 49
2004	1	14 ～ 15	ダンボールを積載したパッカー車が、荷下ろし場所へ向かって、バックで進入した際に後輪で近くで作業していた被災者をひいた。	221	7	1～9
2004	10	0 ～ 1	社有車で営業活動のため国道を走行中、反対車線にはみ出し対向車と衝突した。	231	17	10～ 29
2004	11	15 ～ 16	ラージベール（古紙をシュート上部から投入しホッパに貯蔵の上、シリンダで圧縮し番線で梱包する機械）内に設置されている攪拌機に異常が発生したため、同僚とともに攪拌機をシュートから引き出し、古紙を取り除くなど障害復旧を行っていたところ、攪拌機とホッパ扉の間に挟まれた。	169	7	1～9

2004	12	16 ～ 17	鉄くず等廃材の集積作業場において、ショベルカーのアームの先端にハサミ状のアタッチメントをつけたニブラを使い、廃材の山を整理している途中、運転者が車体を旋回させたところ、アームの先端が高さ3mの冷温水器のユニットの上に置いていた廃タイヤに接触、タイヤが落下し、近くにいた被災者に激突した。	229	4	1～9
2004	2	9 ～ 10	4tダンプトラック解体のため、被災者が橋形クレーンを使用し、解体以前から荷台前方部に溶接されていた鋼製リング状金具（飛散防止用シートを取り付けるためのもの）につりチェーンフックを掛け、荷台部をつつて、ダンプアップした状態で作業していたところ、鋼製リング状金具の溶接面が破断、荷台部が下がり、荷台と車体フレームとの間にいた被災者が挟まれた。	611	7	1～9
2004	11	17 ～ 18	物流センター倉庫内において、フォークリフトを操作し、木製のパレット（1段の重量約20kg）の回収作業を行っていたところ、フォークリフトに積んでいた12段のパレットのうち上部2段と運転席前面の金網に挟まれた。	379	7	100 ～ 299
2004	10	21 ～ 22	乗用車で高速自動車道を走行していたところ、中央分離帯に衝突し、その後、後続のトラック等に衝突した。	231	17	1～9
2004	9	20 ～ 21	製品（総重量約300kg）を仮置場から所定置場へフォークリフト（最大荷重1.5 t）を使用して運搬する作業中、砂地に右側車輪が脱輪した。そのため、友人に事業場のトラック（積載荷重2 t）にロープをかけて引っ張ってもらい、自らはフォークリフトの運転席に座って脱出を試みたところ、砂地から脱出したはずみでフォークリフトが車体左側に転倒し、被災者はヘッドガードと地面の間に挟まれた。	222	2	10～ 29
2004	9	15 ～ 16	フォークリフトで倉庫から坂道を下って行き、ほぼ坂を下りきったあたりで曲がろうとした際、フォークリフトが横転し投げ出された。	222	2	1～9
		12	トラックへの鉢物台車の積込み作業においてトラックに装着されたリフト			

2004	2	～	に鉢物台車とともに乗り上昇させたところ、台車上の鉢物が倒れた。これを直そうとリフト上を移動した際にリフトより転落した。	221	1	50～ 99
2004	2	3 ～ 4	深夜に帰宅し、就寝中に苦しそうな声を出して嘔吐し、病院へ救急車で搬送された。	911	90	30～ 49
2004	5	～	工場内に4段積みされた圧縮梱包古紙（1個あたり100cm×170cm×110cm：重さ840kg）をフォークリフト（アタッチメントはクランプ）で2個トラックに運搬したところ、運搬した古紙の隣に積んであった古紙2個が崩れ落ちて、そのうち1個が近くで古紙の仕分け作業を行っていた被災者を直撃した。	611	4	1～9
2004	11	10 ～ 11	軽ワゴン車にて、医薬品の営業及び配達中に、軽トラックと出会い頭に衝突した。	231	17	10～ 29
2004	1	17 ～ 18	溶解炉のバーナーの修理作業を終了後、手洗いのため工場構内を通行中に炉用インゴット冷却用水槽（水温約70℃・深さ約1m）に転落した。	418	1	1～9
2004	8	6 ～ 7	構内運搬車を運転し、市場内のエレベーターに乗ろうとしたとき、運転を誤り、構内運搬車がエレベーターの扉に当たり、扉を押し開けたため、構内運搬車から振り落とされ、エレベーターのピット内に墜落した。	229	1	1～9
2004	1	11 ～ 12	運転中の被災者が、信号待ち中、車内で倒れた。	921	90	10～ 29
2004	11	～	古紙プレス機のチャンバー内で電源を切らずに、プレッシャープレートに引っかかった結束用番線を取り除く作業をしていたところ、プレス機が作動し、プレッシャープレートと古紙の壁との間に挟まれた。	169	7	10～ 29
2004	7	～	乗用車で国道を走行中、センターラインを越えて対向して来た大型トラッ	231	17	1～9

		13	クと正面衝突した。			
2004	12	17 ～ 18	パッカー車から、荷降ろし場に収集したダンボールを降ろした後、テールゲート内に小さいダンボール屑が残っていたので、これを取ろうとしたときに、他の作業者がテールゲート内の回転板の起動ボタンを押したためテールゲート内に挟まれた。	221	7	10～ 29
2004	8	5 ～ 6	軽トラック（保冷車）で国道を走行中、交差点で対向から右折しようとした乗用車と衝突した。	221	17	50～ 99
2004	11	11 ～ 12	伐採終了後の現場において、木材をトラックに積み込む作業のために一人でドラグ・ショベルを運転して、木材の整理等の作業を行っていた被災者は、積み込み個所の林道路肩より沢に転落、運転席より投げ出され、機械の下敷きとなった。	229	1	1～9
2004	11	11 ～ 12	乗用車を運転中、左カーブで中央線をはみ出し、対向の大型トラックと衝突した。	231	17	10～ 29
2004	2	14 ～ 15	被災者はビルの1階から2階への階段部において、脚立を広げたはしごを壁に立てかけ高さ約1.8mの位置の踏さんの上に乗し、床からの高さ約3.8mの位置に設置していた照明の電球を取替えていたところバランスを崩して後方に墜落した。	371	1	50～ 99
2004	4	9 ～ 10	校舎壁面の時計を交換する作業中、高所から転落した。	371	1	1～9
2004	10	10 ～ 11	一輪車で廃棄物を運搬中、前方より同僚の操作する車両系機械が後進して来たのを避けきれず、接触しひかれた。	169	6	100 ～ 299
2005	4	15 ～	営業車を運転して取引先に向かう途中、運転を誤って対向車線にはみ出	231	17	10～

		16	し、対向のトラックと正面衝突した。			29
2005	1	10 ～ 11	国道を走行中に前方を走行するトレーラートラックの雪煙等で視界が不良となり、対向車線にはみ出し、対向してきた大型バスと衝突した。	231	17	1～9
2005	2	14 ～ 15	有料道路を走行中、トンネル内において路面凍結によりスリップして走行車線の縁石に激突し、その反動で対向車線に横向きの状態ではみ出したところへ、対向車が衝突した。	719	17	1～9
2005	9	16 ～ 17	乗用車を運転中、センターラインをはみ出し、対向してきたマイクロバスと正面衝突した。	231	17	1～9
2005	7	7 ～ 8	斜面から投身した。業務における強い心理的負荷から、うつ病を発症していた。	999	3	30～ 49
2005	6	10 ～ 11	トラック運転席上部にあるシートバケットへシートを載せるため、バケットを地上から7mの高さまで持ち上げて停止させ、シートをシートバケットへ載せようとしたところ、誤まって足を踏み外し、地上に墜落した。	225	1	1～9
2005	8	11 ～ 12	H鋼のガス溶断作業中、H鋼の間に挟まれた。	521	5	10～ 29
2005	9	15 ～ 16	国道を走行中、対向車線にはみ出し、大型トラックと正面衝突した。	231	17	30～ 49
2005	8	8 ～ 9	被災者はタイムカード打刻と着替えのために、建物内の階段を1階から2階に上っていく途中で後ろ向きに倒れ、1階と2階の間にある踊り場に転落した。	413	1	100 ～ 299
2005	12	14 ～	乗用車で高速自動車道を走行中、トンネル内において、前方を走行する貨	231	17	1～9

		15	物トレーラートラックを追い越す際、接触した。			
2005	1	21 ～ 22	出社後、駐車場へ車を取りに行ったところ車の中で意識を失った。	921	90	10～ 29
2005	2	5 ～ 6	フォークリフトにより金属屑をトラックに積み込む作業を行っている最中、移動中のフォークリフトが横転し、フォークリフトを運転していた被災者がその下敷きとなった。	222	2	1～9
2005	11	9 ～ 10	空荷のフォークリフトを置場に戻すため運転中、フォークを1.7mの高さに上げたまま前進で事業場外に出て、傾斜角10度の場所で右折しようとしたところ、フォークリフトが左側面を下にして横転し、当該フォークリフトの下敷きとなった。	222	2	10～ 29
2005	9	18 ～ 19	被災者が缶飲料を自動販売機に充填する業務を終えて事業場に戻った時、熱中症により具合が悪くなった。	715	11	10～ 29
2005	10	10 ～ 11	廃プラスチック類搬送コンベヤーにおいて、選別作業中にコンベヤーにプラスチックが詰まったため、コンベヤーの電源を切らずにプラスチックを取り除こうとしたところ、巻き込まれた。	224	7	10～ 29
2005	11	15 ～ 16	乗用車で国道を走行中、片側1車線のゆるい左カーブの箇所において対向車線にはみ出したため、対向してきた大型トラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2005	5	17 ～ 18	ビル非常階段より、転落した。	413	1	100 ～ 299
2005	12	13 ～ 14	国道交差点付近を乗用車で直進走行中、交差点において右折しようとする対向車に衝突した。	231	17	100 ～ 299
		19				100

2005	3	～ 20	横断歩道を渡っていたところ、交差点を右折してきた大型バスにひかれた。	231	17	～ 299
2005	6	～ 11	軽トラックで国道を走行中、欄干に激突した。	221	17	30～ 49
2005	2	～ 10	ワゴン車で国道を走行中、センターラインをはみ出してきた対向のトラックと衝突した。	221	17	50～ 99
2005	2	～ 15	屋根に太陽光システムを設置するに当たり、屋根寸法を測るため納屋の軒に木製のはしごをかけてスレート屋根に上がったところ、スレートを踏み抜き、3m下のコンクリート床に墜落した。	415	1	10～ 29
2005	12	～ 14	乗用車に後部座席に乗り移動中、交差点にて、優先道路を横断しようとしたトラックと衝突した。	231	17	1～9
2005	10	～ 1	トラックを運転中、上り坂左カーブで、対向車線にはみ出して対向してきたダンプトラックと乗用車に相次いで接触し、そのままガードレールを突き破り、田んぼに転落した。	221	17	1～9
2005	6	～ 16	トラックで県道を走行中、緩やかな右カーブでセンターラインをはみ出し、対向してきた大型トレーラートラックの側面に衝突した。	221	17	10～ 29
2005	1	～ 15	被災者が醤油の配達先で、醤油を入れる箱に入っていた空き瓶と新しい醤油を入れ替える作業中に側溝（幅1.3m、深さ1.5m）に墜落した。	416	1	1～9
2005	4	～ 22	ライトバンで高速自動車道を走行中、前方を走っていた乗用車がセンターラインを越えて対向車線にはみ出したはずみで、対向してきた大型トラックがライトバンの前に飛び出し、被災者のライトバンと正面衝突した。	221	17	10～ 29
		19				

2005	7	～ 20	車両積載形トラッククレーンを運転中、下り右カーブで左側のガードレールを突き破り、15m下の川へクレーン車両ごと転落した。	221	17	1～9
2005	11	22 ～ 23	社有車で高速自動車道を走行中、中央分離帯にぶつかり、スピンしながら法面に衝突し、車外に投げ出された。	231	17	1～9
2005	8	7 ～ 8	作業中、古紙プレス梱包機のシリンダーと鉄骨との間に挟まれた。	169	7	10～ 29
2005	7	10 ～ 11	貨物自動車を傾斜のある場所に停車させ、ギヤを中立にし、サイドブレーキを掛けないまま運転席を離れたため車両が傾斜を下りだし、これに気付いた被災者が車両前方にまわり込み止めようとしたが止めきれず、他の貨物自動車に衝突し、被災者が両車両の間に挟まれた。	212	6	1～9
2005	8	11 ～ 12	資材を保管する倉庫内においてフォークリフトに積んだ資材（合板60枚、重さ1.7トン）の一部が荷崩れにより被災者に激突した。	222	4	1～9
2006	1	14 ～ 15	普通乗用車を運転して県内の取引先へ挨拶回りをしている途中、立ち寄った休憩地の駐車場において、停車後、被災者が運転席を離れたところ、車が走り出した。直ぐに被災者が運転席に戻り車を止めようとしたが、ブレーキとアクセルを踏み間違えたため、車止めを乗り越えて駐車場の柵を突き壊し、車ごと転落した。	231	17	1～9
2006	2	9 ～ 10	建設工事現場に生コンクリートを納入するため、現場で立ち会っていた被災者が、動いているミキサー車の後方で生コンクリートをポンプ車に流し込むためホッパーの準備中にポンプ車とミキサー車との間に挟まれた。	221	7	10～ 29
2006	2	15 ～ 16	塗料調合作業に従事していた被災者が、ローラーコンベアにうつ伏せに倒れ、塗料缶を吊り上げた自動送り装置に圧迫された状態で発見された。事故当時、被災者は一人で作業をしており、被災場所は通常、労働者が入る場所ではなかった。	167	7	10～ 29

2006	1	15 ～ 16	営業先より帰社途中、交差点内横断歩道を歩行していたところ、左折しようとしたダンプトラックに接触した。	221	17	50～ 99
2006	3	13 ～ 14	古いタワークレーンを解体する作業中、上部旋回体後部に取り付けられたカウンタフレーム（重さ8.9t）を解体するため、ワイヤロープ（16mm）で玉掛けした移動式クレーン（吊り上げ荷重45t）で保持した後、カウンタフレームを支持する鋼棒をガス溶断したところ、ワイヤロープが破断し、カウンタフレームが傾斜して、被災者は約13m下の地面に墜落した。その直後、カウンタフレームが被災者の上に落下した。	418	1	1～9
2006	3	17 ～ 18	事業場内の倉庫において、被災者は製品を出荷するため、移動はしごを用いて棚（高さ2.8m）に積まれた製品を箱から取り出そうとしたところ、バランスを崩して床面（コンクリート）に墜落した。	371	1	1～9
2006	4	17 ～ 18	営業業務を終えて会社へ戻るため、県道を乗用車を運転して走行中、対向車線を超えて用水路に転落し、死亡した。	231	17	10～ 29
2006	1	15 ～ 16	海外に出張した被災者は、取引先が用意した車に同乗し、高速道路を走行中、当該車のタイヤが破裂し、横転した。この際、被災者が車外に投げ出された。	231	17	50～ 99
2006	1	18 ～ 19	客先において、ネットワーク工事完了後、通信機器の確認及び提案パソコンのカタログを入手するため、家電量販店に立ち寄っていたところ、通路にて転倒した。	417	2	50～ 99
2006	5	17 ～ 18	自動車道上り線を社用車で走行中、センターポールに接触したため左右に急ハンドルを切った結果、下り線に飛び出した後、ガードロープに衝突して停車した。そこに対向車が衝突した。	231	17	10～ 29
2006	6	19 ～ 20	被災者が営業所に戻るためトラック（1トン車）を運転し、国道バイパス上り線を走行中、センターラインをオーバーし、下り線を走行中のトレーラー（20トン車）と衝突した。	221	17	1～9

2006	7	16 ～ 17	被災者は、営業のため、レンタカーを運転し国道を走行していたところ、対向車線にはみ出し、対向してきたダンプトラックと正面衝突した。	231	17	10～ 29
2006	7	16 ～ 17	営業活動のため、道路を軽自動車（社用車）で走行中、道路左側車線に停車していた大型トラックに追突した。	231	17	50～ 99
2006	8	15 ～ 16	被災者が詰め所から約16m離れた事務所に歩いて向かう途中、詰め所前に被災者が停めていたトラックが後ろ向きに事務所に向かって動き出し、事務所前に停めてあったフォークリフトの後部と動いてきたトラックの荷台との間に被災者が挟まれた。詰め所から事務所までは約3.5度の下り勾配となっていた。	221	7	10～ 29
2006	8	19 ～ 20	翌日出荷予定の鉄骨梁1本が不明となったため、他現場へ出荷する梁の中から2.8トン天井クレーンを使用して1本ずつ選り分けて探していたところ、梁1本（H鋼、H-588×300×12×20、長さ4.6m、重さ約700kg）が落下し、はさまれた。	521	4	10～ 29
2006	8	13 ～ 14	工場倉庫中2階にて荷揚げ作業後に、アルミ製の移動はしごを用いて同中二階から降りる際に、はしごが転移したため、はしご上から1階コンクリート床に墜落した。	371	1	1～9
2006	6	7 ～ 8	片側一車線道路において、被災者が軽油を配送する為タンクローリーを運転中、対向車（自家用車）と衝突、そのまま左側の立ち木に衝突した。	231	17	10～ 29
2006	8	10 ～ 11	事業場内において、トラック（最大積載荷重7500kg）荷台に取り付けたオープンコンテナにバラ物の古紙を入れ、オープンコンテナ上で均し作業をしていたところ、古紙の上で作業していたため足元が滑り、高さ2.5m下のコンクリート床面に墜落した。	221	1	1～9
		14	トラックから鉄骨廃材を荷卸しする作業中、リフティングマグネット（ドラグ・ショベルのベースマシンにマグネットのアタッチメントを取付け、吸付けた鉄くず等を運搬する専用機）のアタッチメントのフックにかけた玉			

2006	9	9 ～ 15	掛け用ワイヤロープで当該廃材を玉掛けし、一点吊りで吊り上げたところ、廃材が振れて先端がトラックのヘッド上で待機していた被災者に当たった。廃材が振れるとともに、玉掛け用ワイヤロープは切断した。	372	6	1～9
2006	9	9 ～ 10	本社構内の屋外通路において、被災者が業務打合せのため携帯電話で話しをしていたところ、近くに停まっていた4トントラックが被災者の背後から後退してきて被災者に激突し、轢かれた。	221	6	300 ～ 499
2006	9	11 ～ 12	被災者は、市場からトラック（3 t 車）に荷物を積み、会社に運ぶため、自動車道下り車線の一番左車線を走行中、2台前の普通貨物自動車エンジントラブルにより路肩に移動しようと減速した。その際、その後ろを走っていた大型トラックも減速したため最後尾を走行していた被災者がその大型トラックに追突した。	221	17	10～ 29
2006	8	8 ～ 9	高速自動車道下り線で客先に向けて商品である車用の部品等を乗用車で配達途中、工事のため、前方の車両が渋滞しており停止していた2トントラックに追突した。	231	17	1～9
2006	10	17 ～ 18	加工場内の冷蔵庫において、フォークリフトで上昇させたパレット上で作業を行ない、墜落しフォークリフトの横に倒れているのが発見された。	222	1	30～ 49
2006	9	8 ～ 9	高速道路下り線を走行中、右側車線に車線変更をしたところ、後続車に追突され、ガードレールに激突し横転した。	231	17	30～ 49
2006	10	15 ～ 16	スーパーにおいて、ダンボールの収集作業中、ダンボールを収集車に積み込んでいたところ収集車の圧縮板にはさまれた。	229	7	1～9
2006	10	11 ～ 12	店舗内で調理器具の商品を陳列のため、脚立（約1.5 m）を使用して陳列作業中にバランスを崩して脚立から墜落した。	371	1	10～ 29
		0				

2006	11	1	国道を大型トラックにて走行中、渋滞により停車していたタンクローリーに追突した。	221	17	1～9
2006	11	5 6	出荷されてきた牛を、搬送してきたトラックの運転手1名と牛の荷受け作業員2名で、荷下ろし作業中、被災者がトラックより降りた牛を計量器に引っ張って行く途中、牛が突然突進してきたため、逃げようとして鉄柵と鉄柵の隙間に身体を入れようとした時、牛が追突し、鉄柵と牛の間にはさまれた。	719	6	50～ 99
2006	10	21 22	営業職の被災者が、自動車得意先に向かう途中、県道左脇の木に衝突した。	231	17	30～ 49
2006	11	17 18	被災者は、2トン保冷車を運転して配送業務を行ない、配送を終えて会社へ戻るため走行していたところ、反対車線を走行してきた2トンダンプが車線をはみ出し、被災者の前を走行していた軽自動車と被災者の車両に相次いで衝突し合計4台の事故となり被災した。	221	17	10～ 29
2006	12	11 12	建築後30年を経過して老朽化した事業主自宅のブロック塀（高さ1.9メートル、長さ12.5メートル）の自然倒壊を防止するため、事業主と被災者が手工具で当該ブロック塀を解体していたところ、ブロック塀が全長に渡って倒れ、被災者がその下敷きになった。	418	5	1～9
2006	11	5 6	魚の仕入れ先の卸売市場へ直行し、その荷物を市場で降ろすため運転走行中、片側五車線の交差点において、被災者は前方の青信号に従い進入したところ、反対車線の相手車両が右折をしたため、被災者が運転する車両と衝突した。	231	17	1～9
2006	12	13 14	スーパーに水産加工品を納品するため、4.5t保冷車で国道を走行中、赤信号で停車していたダンプに追突し、当該保冷車を運転していた労働者と同乗車の2名が死亡した。追突されたダンプの運転手1名も負傷した。	221	17	10～ 29
		13	スーパーに水産加工品を納品するため、4.5t保冷車で国道を走行中、			

2006	12	～ 14	赤信号で停車していたダンプに追突し、当該保冷車を運転していた労働者と同乗車の2名が死亡した。追突されたダンプの運転手1名も負傷した。	221	17	10～ 29
2006	12	～ 6	5 国道を走行していた大型トレーラーが道路側面の擁壁を乗り越え海岸に転落、運転手が全身を強打した。	221	17	10～ 29
2006	11	～ 14	13 商品配送のため、県道（上り線下り線1車線ずつの対面通行）を走行中、被災者の車両がセンターラインをオーバーし、対向してきたトラックに正面から衝突した。	231	17	50～ 99
2006	12	～ 17	16 配達先で木材の束をトラックの荷台から降ろすために、配達先に設置されている天井クレーンを使用して作業していたところ、床コンクリート上に倒れているのを発見された。	417	2	10～ 29
2006	11	～ 14	13 被災者は同僚と2人で車庫においてキャリアカーのテールゲートのワイヤ取替え作業を行っていた。テールゲートを人力で支えて徐々に降ろす作業中、ゲートを支えきれなくなりゲートが倒れてきて、ゲートと地面の間に挟まれた。	221	7	10～ 29
2007	11	～ 17	16 鉄製コンテナに積まれた選果前の玉ねぎ（重量約1.5t）をフォークリフト（最大荷重2.5t）を用いて事業場敷地内に積み上げる作業中、フォークリフトが横転して運転者が運転席から投げ出され、横転したフォークリフトと地面との間にはさまれて死亡した。作業場は、雨によるぬかるみができていた。	222	2	30～ 49
2007	6	～ 16	15 被災者2名は解体中の機械式ごみ収集車の廃油一時受け用としてドラム缶をガス切断器により胴体部を切断しようとしたところ、ドラム缶内部で爆発が生じ、被災した。被災者2名の内、補助作業従事の1名が入院加療の後に死亡した。	512	14	1～9
2007	10	～ 11	被災者は旅館敷地内で普通トラックから荷下ろし作業を行っていたところ、同旅館内に品物を運ぶため停車させていた別業者の普通トラックが無人のまま動き出し、坂道を下り被災者に激突し、自社の普通トラックとの	221	17	10～ 29

		12	間にはさまれた。			
2007	9	17 ～ 18	被災者がストックヤードにてコンクリート等再生骨材の中に混入しているプラスチック等の異物を取除く作業を行っていた際、車両系建設機械により骨材のかき揚げ作業を行っていたオペレーターが被災者に気付かずバケットで被災者を押し倒したまま再生材に押し付けさらにその上からバケット内の再生材をかけ埋めてしまった。被災者は自力で這出しその後病院へ搬送されたが死亡した。	141	6	1～9
2007	7	12 ～ 13	工場からスクラップの機械（プレス重さ約9 t）を大型トラックで運搬する途中、自動車道ジャンクションにおいて大型トラックが、ガードレールを突き破り、道路外で横転、被災した。	221	17	10～ 29
2007	10	13 ～ 14	午前中に玄米が入った米袋（重さ約1 t）の移動作業中、米袋から相当量の米をこぼした。午後から別の米袋にこぼれた米を入れ替える作業を行っていた時、3段積の米袋が崩壊、その下敷きとなった。	611	5	1～9
2007	4	9 ～ 10	営業を終えて事務所に戻った被災者が、自分の席で同僚と談笑中、イスから立とうとして突然床に倒れ、2日後に死亡した。	921	90	1～9
2007	7	23 ～ 24	帰社のため、大型トラックで自動車道を走行中、交通事故により渋滞した車列の最後尾で停車中の大型トラックに追突した。	221	17	1～9
2007	11	6 ～ 7	配達先（8件配達予定の6件目）で、3 t車トラックについているゲートリフターを使って、商品を積んだカーゴを降ろそうとした際、ゲートリフターからカーゴと一緒に落下し、その時に地面とカーゴにはさまれた。	221	1	30～ 49
2007	12	10 ～ 11	タンクローリー内の灯油・軽油をセンター内の地下貯蔵庫へ下ろす作業を行っていた際、高さ約2.7 mのタンクローリーの上部から墜落した。被災者はトレーラーの運転手でもあり、当該作業を単独で行っていた。	221	1	1～9
2007	3	11	病院に医療機器を設置し、ホテルに帰るためライトバンに作業員3名が乗り国道を走行中、信号が変わり減速していたところ後ろから来た大型ト	221	17	30～

		12	トラックに追突され対向車線に跳ね飛ばされ横転し、1名が死亡した。			49
2007	1	12 ～ 13	建物に付属している電動シャッターにはさまれている被災者を出社してきた他の作業者が発見し、病院に搬送されたが死亡した。	391	7	50～ 99
2007	4	11 ～ 12	取引先で打ち合わせ終了後、階段を下りている途中で転落し（およそ10段）た。	413	1	1～9
2007	10	10 ～ 11	作業者は、産業廃棄物（非鉄雑品）を8tトラックにより取引先において荷卸後、地上からトラックの右側面のあおりを上げようとしていたところ、当該トラックに積んで来た「さし枠」を荷台に載せようとしていた重機のアタッチメントの先端が当該あおりに激突し、その反動であおりが被災者を直撃した。	221	6	1～9
2007	11	8 ～ 9	国道上において、被災者運転の大型トラック（11t車、白ナンバー）と大型キャリアカーが正面衝突した。	221	17	1～9
2007	1	14 ～ 15	営業所より、普通ライトバンに乗り取引先への年始のあいさつ回りへ行くため、県道を走行中、センターラインをオーバーし、対向車線を走ってきた大型トラック（10t）と正面衝突した。	231	17	1～9
2007	10	11 ～ 12	倉庫内に積み上げられた段ボール箱に入っている商品を、脚立を使用して降ろしている際に転落した。	371	1	100 ～ 299
2007	3	17 ～ 18	高さ1.3mの作業構台上で、上下2段に積まれたトラック用シャーシ2本を事業主が運転するフォークリフトで後方から押してコンテナに積載する作業中、被災者がシャーシの車軸の輪止めをはずしたため、荷が1.5m後退し、シャーシの車輪の下敷きになった。	612	7	10～ 29
2007	12	13	回収したプラスチック廃材を粉砕する工程において、プラスチック廃材を粉砕機に投入できる大きさにするため携帯式丸のこ盤を用いて切断してい	131	8	1～9

		14	たところ、当該丸のご盤の歯が当たった。			
2007	5	13 ～ 14	被災者は1人で商品の配送していた。トラックからの搬入が終わり、トラック後部の扉を閉じようとした時、傾斜地に停車させたトラックのサイドブレーキが十分効いていなかったため、トラックがゆっくりバックした。あわてて人力で止めようとしたが、商品搬入口のプラットホームとトラック後部にはさまれた。	221	7	1～9
2007	9	11 ～ 12	被災者は、肥料（1袋20kg）の袋を店頭に設置された3段式の陳列棚の2段目に陳列する作業において、フォークリフトで持ち上げられた当該肥料が積まれているパレットに乗り、陳列棚上で作業している他の作業者に当該肥料の袋を渡す作業中、当該パレットから1.5m下の床面に墜落した。	222	1	10～ 29
2007	10	13 ～ 14	被災者がペットボトルを圧縮梱包機に投入作業中、機械の裏側に入り、コンベヤーとコンベヤーのフレームの間隙（16cm）にはさまれた。	224	7	1～9
2007	4	1 ～ 2	空港から、宿泊先のホテルへタクシーにて移動中、タクシーが道路中央分離帯にある道路標識鉄柱に衝突した。被災者は、後部座席に乗っていたが、衝突時に前方に投げ出された。	231	17	100 ～ 299
2007	5	9 ～ 10	自動車整備工場において、被災者は同僚と共にワンボックス車の足回り部品交換作業に取りかかった。右前輪のロアアームという部品のボルトを緩めるために、同僚がミッション装置の下部に角材をあて、被災者がリフトを降下操作している際、高さ150cmのリフト上にあったワンボックス車がバランスを崩し、被災者側へ倒れ込み、その下敷きとなった。	214	4	30～ 49
2007	9	10 ～ 11	国道上で、断熱材を配達中、渋滞のため停止していたところ、後続の大型トラックに追突され、前のトラックとの間にはさまれた。	221	17	1～9
2007	11	19 ～ 20	被災者が、営業所に帰る途中、被災者が運転する1.5t積トラックが対向車線へはみ出し、対向車線を走行していた4t積トラックの側面に衝突し、その後対向車線を横断し、縁石を乗り越え法面に衝突した。	221	17	10～ 29

2007	8	16 ～ 17	対向車線走行中のトラックの積荷が落下し、被災者が運転していた車を直撃した。	221	4	1～9
2007	1	14 ～ 15	県道で被災者運転の乗用車が前方の車を追い越そうと対向車線にはみ出したところ、ダンプカーと衝突した。はずみで元の車線に戻り、元の車線を走っていたトラックと再度衝突した。	231	17	30～ 49
2007	10	3 ～ 4	鶏糞を輸送するため、国道を中型トラックで走行中、下り坂の急カーブで走行車線をはみ出し、さらに道路上から下方の雑木林にトラックごと転落した。	221	17	10～ 29
2007	12	11 ～ 12	ワンボックス車を運転し商品を配送後、帰社するため国道を走行中、対向してきた大型トラックが中央車線をはみ出してきて正面衝突された。	221	17	30～ 49
2007	7	14 ～ 15	デリックを使用して、台船に鉄くずを積み込む岸壁道路上の作業現場において、鉄くず積み込み終了後の空バケット（縦2.2m、横4.15m、高さ1.04m）前にいた被災者が、鉄くずバケットを積んで後退してきたトラック（積載荷重3.5t）の荷台と空バケットにはさまれた。	221	17	1～9
2007	6	13 ～ 14	普通貨物自動車で県道を走行中、対向車が被災者側の車線にはみだして被災者の車両と正面衝突した。	231	17	50～ 99
2007	6	15 ～ 16	ガードレールを積載形移動式クレーンにより荷台に積み込む作業中、荷台に載せたガードレールの玉外しをしたところ、ガードレールが荷崩れをおこし、ガードレールと一緒に荷台より墜落し、下敷きとなった。	521	5	1～9
2008	5	20 ～ 21	営業を終えて帰社するため、国道を走行中にトンネル入口付近に衝突し、車両が炎上して死亡した。現場は、直線道路で事故当時、雨天で路面は濡れていた。	231	17	10～ 29
		14	商品保管倉庫内に積まれていたウレタン製断熱パネルの上に意識不明の状態で仰向けに横たわっている被災者が発見され、死亡が確認された。被災			30～

2008	3	～	者が発見された場所から少し離れたところに、商品にもたれかかるように傾いている脚立があり、その下には被災者が普段使用している眼鏡が落ちていた。	999	99	49
2008	1	～	13 被災者は、片側一車線の国道をワゴン車を運転して得意先を回った後に営業所へ戻る途中で対向車線にはみ出して大型トラックと衝突し、車外に投げ出されて死亡した。	231	17	1～9
2008	11	～	15 リフティングマグネットを装着したスクラップ仕様の移動式クレーンを運転してスクラップ荷のつり作業終了後、運転席から出て、運転席脇の高さ2.35mの昇降用ステップに足を掛けたところ、ステップ踏み面を踏み外して転落した。	212	1	10～29
2008	5	～	14 自動車部品を積んでいた2tトラックを駐車場所に誘導していたところ、転倒してトラックの後部ステップと壁の間にはさまれて死亡した。	221	7	10～29
2008	2	～	16 古紙のプレス梱包機に付属する攪拌機の掃除作業中、攪拌機の回転部に接触して意識を失った状態で攪拌機上に倒れているところを同僚作業者に発見された。病院へ搬送後、受傷から約2か月半後に死亡した。	169	3	10～29
2008	8	～	14 被災者は事業場倉庫においてピッカーフォークリフト（フォークが運転席の後方にあるもの）を使用してパレット（幅110cm）に2段積みされた荷（844kg）を運搬するためラック間の通路をバック走行していた。2段目のパレットがラックの柱に衝突した際、パレットがずれて通路左右のラックの柱に132cmの高さで固定され通路を塞いだため、被災者は当該パレットに激突し、運転席とパレットにはさまれて死亡した。	222	3	100～299
2008	6	～	12 被災者はパッカー車を運転してゴミ回収先から事業場の駐車場に戻り、サイドブレーキをかけてエンジンをかけたまま停車した。回収物を降ろすために運転席から車両後部に回ったところ、パッカー車が無人のまま後退して下敷きとなった。	221	7	10～29
2008	8	～	15 商品を積んだトラックで国道トンネル内を走行中、センターラインを越えてはみ出してきた対向車両（10tトラック）と正面衝突して双方の運転手	221	17	1～9

		16	が死亡した。			
2008	2	9 ～ 10	当該事業場所有の軽貨物自動車（保冷車）で精肉を配達した後、事業場に戻るため国道を走行中、中央線をはみ出した大型バスと正面衝突して死亡した。	231	17	1～9
2008	7	16 ～ 17	トラックで営業先から戻る途中、対向車線からはみ出してきたトラックと衝突して死亡した。	221	17	10～ 29
2008	12	12 ～ 13	国道を走行中にカーブで対向車（大型トラック）と正面衝突して死亡した。	231	17	1～9
2008	5	17 ～ 18	被災者は、注文色の塗料をつくるために調色作業に従事していた。当日の作業終了後に調色で使用した道具等を洗浄中、塗料調合室内に設置されている局所排気装置の前で上半身裸で倒れているのを17時過ぎに同僚らに見されたが、既に死亡していた。被災者が発見された時には調合室の窓及びドアは閉められ、局所排気装置も稼動していなかった。	512	12	1～9
2008	11	6 ～ 7	フォークリフトの運転席前方から運転席に乗り込もうとした際、チルトレーバーを押したため、マストとヘッドガードの間に身体をはさまれた。	222	7	30～ 49
2008	11	11 ～ 12	被災者が休憩中にバイクに乗って建物内から構内道路に出たところ、左方より構内道路を進行してきた運送業者のトラックに衝突した。	231	3	10～ 29
2008	7	10 ～ 11	被災者は回収してきた古紙（ダンボール）をベルトコンベヤーに投入する作業を行っていたが、ベルトコンベヤー付近に被災者がいないことを不審に思った上司が捜したところ、古紙を圧縮する機械にはさまれている被災者を発見した。	169	7	10～ 29
2008	12	10 ～	運送会社のトラック（14.7t車）を棟内に誘導していた被災者が、後進するトラックの後部と建物の鉄筋コンクリート製の壁との間にはさまれた。	221	7	10～ 29

		11				
2008	11	15 ～ 16	廃車のシュレッダーの集じん機清掃作業に従事していた作業者が、集じん機の点検足場上で倒れて死亡しているのを発見された。発見時、集じん機のじん芥を掻き出す装置（チェーンにL型鋼が取り付けられモーターで駆動）が動いており、L型鋼と集じん機本体との間にはさまれて被災した。	391	7	50～ 99
2008	2	5 ～ 6	2tロング車で自社へ帰路途中、自動車道で一時停止していた被災者車両へ8t車両が右後方より追突して被災者が死亡した。	221	17	1～9
2008	6	9 ～ 10	被災者が積み上げられたダンボール上（高さは約1m）で一人で作業を行っていた。しばらくして別の作業者が被災者が出血して座り込んでいるところを発見した。病院へ搬送後、死亡した。	611	1	30～ 49
2008	5	11 ～ 12	トラックスケール場において、被災者がスクラップを積載してきた2tトラックの荷台のシートの取外し作業を行っていた時、屋内から屋外へ後進してきたドラグ・ショベルのクローラでひかれて死亡した。	229	7	1～9
2008	9	10 ～ 11	魚市場内に置かれた店舗で、被災者が中2階棚上に置かれた発泡スチロール製の箱を取るために、高さ2.62mの棚にはしごを掛け作業していたところ、はしご脚部が滑ったため被災者がはしごから転落して死亡した。	371	1	1～9
2008	12	16 ～ 17	パチンコ店の営業のために乗用車で移動中、自動車道のカーブで中央分離帯を乗り越えたため対向車線を走行中の軽自動車に衝突した。	231	17	1～9
2009	9	17 ～ 18	被災者は、パッケージセンターでの作業が終了し帰宅するため、自家用車を駐車している同構内の駐車場へ向かって歩いていたところ、駐車場を横切ろうと車道から右折してきたトラックに接触し右後輪に巻き込まれた。	221	6	100 ～ 299
2009	11	11 ～ 12	スーパーマーケットの商品搬入口において、商品（段ボール梱包された飲料、重量約300kg）を降ろす作業中、トラック後部の油圧昇降機（テールゲート）を使ってキャスター付き台車（0.7m×0.8m×1.7m）に乗せた商品を降ろそうとしていたところ、誤って被災者は当該台車とともにテール	611	1	50～ 99

			ゲートから転落し、商品とキャスター付き台車の下敷きとなった。			
2009	2	20 ～ 21	出張より帰社し、社内研究会に参加した後、帰宅したが自宅駐車場で自殺した。	921	90	30～ 49
2009	12	15 ～ 16	被災者は、倉庫内でフォークリフト（最大荷重1.1t）のパレットの上に乗 り、商品を棚から取り出す作業を行っていた。パレットの高さを約2.5m 上げたまま、通路を後進していたところ、パレット上の被災者が天井の シャッター部分に当たり、その反動で被災者は地面に墜落し死亡した。	222	1	50～ 99
2009	8	8 ～ 9	取引先の業者が運転する車が、道路（一般公道）より店舗駐車場内に侵入 した際に、ブレーキペダルから足がはなれたため、あわてて再度ブレーキ を踏もうとしたところ、誤ってアクセルペダルを踏んでしまい、被災者を はねた。	231	17	1～9
2009	4	22 ～ 23	被災者が、会社に出勤しないため、同僚が単身赴任先のアパートへ様子 を見に行ったところ、自室内の布団で死亡しているのを発見した。	921	90	50～ 99
2009	2	8 ～ 9	上司が当該事業場に戻ってきたところ、一人で作業を行っていた被災者の 姿が見当たらないことに気付き、従業員とともに事業場内を捜索したとこ ろ、被災者が圧縮機内のダンボールの間に倒れていた。	169	7	1～9
2009	10	15 ～ 16	宅配便発送のため、発送伝票を手を持って2階事務所から階段を上から2段 下りたところで1階床まで約3m墜落した。階段の形状は踏み面24cm、蹴 上げ21cm、段数が17段、幅93cm、踊り場なし、階段の両側は壁であるた め、手すりなし、直線階段、アルミ製の滑り止めがついており、階段の材 質はPタイルであった。1階と2階の高低差3m52cmであった。	413	1	30～ 49
2009	12	15 ～ 16	紙くずを立方体状に圧縮（プレス）するコンパクターと称される機械の掃 除中、身体をはさまれた。	169	7	1～9
		16	業務が終了し、次の訪問先へ向かうため、社有車を運転して高速道を走行			

2009	11	～ 17	中、車内で火災が発生し、被災した。被災者は、災害発生前にセルフ式のガソリンスタンドで給油をした際、ガソリンが身体にかかってしまったが、そのまま自動車を運転し被災に至った。	512	16	30～ 49
2009	4	～ 15	15tトラックの荷台上で積み荷の鉄スクラップの点検作業を行っていた被災者が、トラックの荷台高さ約3mから積み荷の鉄板とともに地上に転落した。	221	1	1～9
2009	7	～ 3	トラック搬入出口付近に積まれたトイレットペーパーを梱包した段ボール付近から出火、瞬く間に倉庫全体に火が燃え移り、鉄骨3階建ての倉庫（約8800平方m）が全焼し、焼け跡から被災者1人が発見された。	611	16	50～ 99
2009	11	～ 9	古紙などを圧縮・梱包する大型機械において、古紙などを運搬・投入する上りコンベヤーの頂上地点で機械に貼り付いた古紙を払い落とす作業中、高さ約6mの作業位置から圧縮・梱包機内に転落し攪拌機に巻き込まれた。	169	1	1～9
2009	7	～ 20	小学校の給食室において、食器洗浄機の付属品の取付作業を行うため、事業場から出張していた被災者2人が食器洗浄機の前で心肺停止状態で倒れているのを発見された。災害発生時、給食室は夏季の冷房効果を上げるために室内を密閉した状態でガス給湯器の排気口を屋外に出さずに使用していた。	391	12	1～9
2009	1	13 ～ 14	被災者は原毛（羽毛布団に詰める羽毛）を詰めたナイロン袋を、リフトで1階から2階に搬送する作業を行っていた。2階の積卸口の扉を開けると、リフト昇降路内壁と搬器の間に袋がはさまっており取り出せなくなっていた。このため、搬器を上下させて袋を取り出せるようにしていた際に、リフトの扉を開けて昇降路をのぞき込んだところ、バランスを崩してリフト扉から勢いよく前転した状態で搬器の天井に墜落した。	414	1	10～ 29
2009	7	～ 17	リサイクルセンター内で、オートマチックベアラー（古紙の圧縮機）による古紙圧縮作業中、同機械が停止したため点検していたところ、プッシャー（シリンダー状の圧縮装置）を囲う金網のうち、安全装置の付いていない箇所金網が外され、金網を固定する枠（筒状の部分）とプッシャー（可動部）とはさまれて死亡している被災者が発見された。	169	7	30～ 49

2009	12	6 ～ 7	被災者が運転する軽ワンボックス車が商品配送のため走行中、道路凍結により対向車線にはみ出し、対向車線を走行していた大型トラックと正面衝突し、死亡した。	231	17	30～ 49
2009	10	12 ～ 13	軽トラックを運転して商品の配送中、対向車線をはみ出し、対向してきた大型トラックと衝突した。	221	17	30～ 49
2009	6	8 ～ 9	卸売市場内において、停止中のモートルック（構内運搬車、タイヤ3輪（前1輪・後2輪）、最高速度15km/h、積載荷重1t、積荷なし）から約4m離れた道路上で、うつ伏せで倒れている被災者が発見された。発見時から意識不明の状態であり、病院に搬送されて治療が続けられたが、後日死亡した。	229	17	30～ 49
2009	7	14 ～ 15	古紙を圧縮する油圧式圧縮機の内部に身を乗り出して古紙を入れていたところ、誤って起動スイッチに触れ、降下してきた上型にはさまれた。	169	7	1～9
2009	11	9 ～ 10	被災者は、書類等を届けるために自宅より本社に自家用車で点滅信号交差点に黄色点滅側から進入したところ、赤点滅側から進入したバックパッカー車と出会い頭に衝突し、被災した。	231	17	1～9
2009	3	19 ～ 20	原付バイクで交差点を南行き右折中、北行中のゴミ収集車と衝突した。	221	17	1～9
2009	8	7 ～ 8	代表者と2人が池に到着し、自生するジュンサイ採取の準備作業中、先に池に向かった被災者が行方不明となり、翌日消防により池の中に沈んでいるところを発見された。	713	10	1～9
2009	1	9 ～ 10	作業場内において、トラックの解体作業中、トラックキャabinを約45度チルトアップ（傾斜）しているときに、急にトラックキャabin落下防止ストッパーが外れてトラックキャabinが落下し、被災者がはさまれた。	221	7	1～9
		14	取引先へ出張に行く途中、高速道路を走行していたところ、濃霧で見通し			

2009	1	15	～	が悪かったため、前方に停車していた車両に気付くのが遅れて衝突した。	231	17	1～9
2009	2	21	～	夕刻、卸売市場仲卸業者である被災者は、勤務を終了し帰宅のため駐輪場へ向かった。翌日深夜、同駐輪場で倒れているのを同市場仲卸業者が発見し、救急手配し搬送したが死亡した。	921	90	30～ 49
2009	4	6	～	地下鉄の売店に牛乳配達中、自動車から台車を搬出していた時、居眠り運転をしていた車にはねられた。この事故により、他に1名もはねられて死亡した。	231	17	1～9
2009	12	10	～	11 回収した鉄スクラップを入れる鉄製の箱（220×418×高さ79cm：自重1t＋スクラップ3t計約4t）を運搬船に載せるために岸壁に設置したデリック（つり上げ荷重12t）でつり上げ搬入していたところ、当該箱を搬入したスクラップ上の不安定な場所におろしたため、玉掛け作業を行っていた被災者がつりチェーンを外した後、移動していた時に箱がすべって、被災者に激突し、当該箱と船の隔壁の間にはさまれた。	611	6	1～9
2009	9	5	～	6 トラックで目的地に向かう途中、路側に停車中の大型トラックに衝突した。このため、助手席に乗っていた作業員（被災者）がはさまれ死亡した。トラックの運転手及び大型トラックの運転手にはケガはなかった。	221	17	10～ 29
2009	9	11	～	12 被災者1人で、塩ビ棚に立て掛けられていた塩ビ管3本（径300mm、長さ4m、重量55kg）を1本ずつ手作業で横にして、フォークリフトの爪に乗せる作業をしようとしていた。1本目を横にしようとした時、3本がほぼ同時に被災者に倒れかかり、被災者はコンクリートの地面に強打した。	529	5	10～ 29
2009	3	16	～	17 会社の冷凍庫内において、被災者が1人でフォークリフトを操作し、パレット上にはい積みされた魚入り木箱（1段の高さ約1.6m×4段）を搬出する作業中、4段目の木箱をパレットに載せたまま1段目手前の床面に下ろした後、被災者が下ろした荷の前方に立ち入った時に、3段目から下の木箱が崩落し、下敷きとなった。	611	5	10～ 29
		8		バルブの解体作業に用いるプレス（ポンチングマシーン）に注油するため、高さ63cmのプレス土台部分に足を掛け、高さ1.7mの位置にあるプレ			50～

2009	7	～ 9	ス上部注油口から油差しで注油しようとしたところ、コンクリート床に転落した。なお、被災者は保護帽を着用していなかった。	154	1	99
2010	1	23 ～ 24	事業場2階の事務所から出火。事業場1階で出荷準備を行っていた被災者が、2階事務所出入り口付近で倒れているのが発見されたもの。病院搬送後に、一酸化炭素中毒により死亡した。	514	12	10～ 29
2010	1	9 ～ 10	被災者は担当地域の客先に向かうため、営業車（2tトラック）を運転し国道を走行中、センターラインをオーバーし、対向してきた10tトラックに衝突した。詳細については、調査中。	221	17	30～ 49
2010	1	15 ～ 16	工場建屋の雨漏り修理依頼があり、工事見積もりのために雨漏り箇所の状況を確認しようとスレート屋根の上を移動していたところ、スレートを踏み抜き、約7.7mの高さから墜落した。歩み板の使用や防網の設置等の対策が講じられていなかった。	415	1	1～9
2010	2	20 ～ 21	道路貨物運送事業場に、客先に発送する荷物を2tトラックで持込み、受付事務所横のスロープに止め、トラックから離れ、受付で話をしている時に、サイドブレーキを引いておらずトラックが動き出した。この際、止めようとして、トラックとホームの間にはさまれたもの。	221	7	1～9
2010	2	16 ～ 17	山間地を調査中に約20m下の沢に転落し、後頭部を強打し死亡した。	711	1	50～ 99
2010	2	10 ～ 11	被災者は事故前日に客先に向けて社有車（ワゴン車）で出発し、客先で営業を行い同市内で1泊した。翌日、明日に開催の産業機械の展示会に出品するため、国道を走行中、1車線の平坦な直線道路（対向車線は2車線）で路面が圧雪アイスバーンであったことからスリップして対向車線にはみ出し、路肩から転落した後に立木に激突した。病院に搬送されたが頭部の骨折及び負傷により死亡した。	231	17	1～9
2010	4	8 ～	被災者は普通貨物自動車に乗り走行中、緩やかに右カーブしたあとの上り坂にさしかかったところ、雨で濡れた路面でスリップし、スピンしながら	231	17	10～

		9	中央線を越えたため、対向車線を走行中の普通自動車の正面に自車の左後部が激突し、横転し、頭を打って死亡した。			29
2010	4	15 ～ 16	駐車場において、高さ約1.8mの脚立を使用して看板の固定作業中、身を乗り出した際に墜落し、頭部をアスファルトの地面で強打し、2日後に死亡したもの。脚立を設置した地面が碎石敷きで、脚元がぐらついていた。	371	1	1～9
2010	5	17 ～ 18	婦人バッグ等の製造卸しを営む事業場の倉庫において、クロスサポーターにより積み上げていた段ボール入りの商品を取ろうとして、被災者がコンテナをよじ登っていたところ、足を滑らせ墜落した。	419	1	30～ 49
2010	7	16 ～ 17	被災者は、建屋（2階建倉庫兼作業場）内に設置された昇降機（0.49t吊りホイスト、床面積約0.62平方m）に乗って下降していたところ、搬器の天井梁と建屋2階床との間に首をはさまれて、死亡したもの。昇降機に囲いや安全装置は設置されていなかった。	214	7	1～9
2010	7	14 ～ 15	休日出勤中、被災者は事業場内のトイレで便座に腰を掛け、壁面にもたれかかって脳内疾病により死亡した状態で発見されたもの。発症前2か月平均の時間外労働時間は月100時間45分であった。	921	90	100 ～ 299
2010	7	14 ～ 15	被災者は朝から肩に痛みがあったため、午前中に病院へ行き、受信後、配達業務に従事していたところ、長時間の過重労働により配達先で胸を押さえながら倒れ、搬送先の病院で死亡したもの。	921	90	30～ 49
2010	8	9 ～ 10	配達先の敷地内において、被災者がコンテナ内に商品を納品しようとバネ付きフック2個を外し、ワイヤーを引っ張り金属製の扉を1人で開けたところ、当該扉（高さ2.13m、幅2.08m、厚さ0.07m）の下敷きになり死亡したもの。	419	7	1～9
2010	9	11 ～ 12	被災者がギロチンプレス（剪断圧力1250t）の刃部の交換作業を行っていた際、被災者が当該ギロチンプレスの材料押さえの作動スイッチに触れたため、当該材料押さえ（材料押さえ圧力400t）が下降し、被災者は当該材料押さえと作業面との間に挟まれて死亡したもの。安全ブロック等の挟まれ防止措置を講じていなかった。	156	7	30～ 49

2010	10	16 17	シュレッダー工場内に設置されたタンブリングシャー脇のピットから、油圧ショベルに掴みアタッチメントを取り付けた重機を使用し、スクラップを取り出す作業を行っていた。被災者は、ピット脇でスクラップを掴む誘導を行っていたが、「あと5回で作業終了」と指示した後に姿が見えなくなった。作業を終えたオペレーターが重機を後退させようとしたところ、クローラーと上部旋回体の間に挟まれて左クローラー脇に倒れている被災者を発見した。	149	7	10～ 29
2010	11	10 11	会社指示により、顧客の事務所・倉庫の引越しを手伝っていた際、階段より転落し左足を骨折した。当日は夕方まで作業を実施。翌日、出勤後、痛みがあり通院・療養を開始し、休業（有休、健保処理）した。約1カ月後、突然、肺の痛みを訴え、救急で搬送されたが、血管が詰まって死亡した。	413	1	1～9
2010	11	12 13	派遣先の入出荷エリアの中2階において、自動倉庫から出荷された日用品の仕分け作業中、搬送台車上の荷の修正で可動範囲に立入ったところ、スタッカークレーンと搬送台車の荷の取り合いの開口部から5.07m下の1階床面に墜落したもの。	416	1	300 ～ 499
2010	12	19 20	顧客先から営業所へ戻るため、社有車（キャラバン）を運転し国道を走行していたところ、前方不注意により片側2車線の左側車線に故障して停車していた大型トレーラーに追突し、死亡した。	231	17	1～9
2010	12	4 5	高速道路の登坂車線において、故障した被災者のトラックと救援にきた同僚のトラックの間に被災者が立っていたところ、走行してきた別会社のトラックが、走行車線から登坂車線に車線変更してきたため救援のトラックに追突し、被災者が故障したトラックとの間に挟まれ死亡した。追突した運転手も負傷した。	221	17	100 ～ 299
2011	12	9 10	被災者は営業で社用車を運転中、直線の道路でスリップし、中央分離帯を乗り越え対向車線を走行していた大型トラックに衝突し、病院に搬送される途中で死亡したもの。被災者は単独で営業に行っていたもので、シートベルトをしていたかどうかは不明である。	231	17	10～ 29

2011	6	21 ～ 22	<p>営業先から会社に戻るため乗用車により高速自動車道を走行中、走行車線（左車線）において前方を走行していた乗用車に急接近したため慌ててハンドルを切り追い越し車線へ入ったところ乗用車が蛇行し中央分離帯に激突した。その反動で乗用車は走行車線側に飛ばされ、前方を走行していた乗用車に衝突した。中央分離帯に激突した乗用車に乗車していた6人の内3人が車外に投げ出され1名が死亡した。</p>	231	17	10～ 29
2011	2	8 ～ 9	<p>被災者は客先からのクレーム対応のため社有車（バン）を運転し車道を走行中、対向車線をはみ出し、対向してきたダンプと正面衝突した。被災者はシートベルトを着用していた。なお、現場は片側一車線のやや下り勾配で見通しの良い連続する曲線区間の直線道路で事故当時は路面にシャーベット状の雪が残っていた。</p>	231	17	10～ 29
2011	7	8 ～ 7	<p>卸売市場内で他社のトラックの荷台上の荷物を片付け後、降りる際に足を踏み外して転落し、8月4日に脳挫傷で死亡した。</p>	221	1	10～ 29
2011	12	8 ～ 9	<p>廃車となった2 tトラックのアルミ製の荷箱（長さ：約4 m、縦横：約2 m）を地面に下ろすため、事業者がフォークリフトを操作して荷箱後方を少し持ち上げ、また、被災者は車体と荷箱の間に台木を挿入するため、荷箱脇で待機していた。その際、荷箱が地面に横転し、被災者がその下敷きとなって死亡した。なお、トラックの車体と荷箱部分は、災害発生前に溶断等により切り離された状態となっていた。</p>	222	6	1～9
2011	4	15 ～ 16	<p>倉庫内において、フォークとともに運転席が昇降するタイプのフォークリフトの運転席に乗って、ラックに置かれた商品を取り出す作業中、4.2 mの高さから墜落した。安全帯は着用していたが使用していなかった。ヘルメットは着用していた。</p>	222	1	50～ 99
2011	7	16 ～	<p>被災者は、はしご兼脚立をはしごとして使用し、そのはしごを足場に、自家発電装置の外壁に取り付けられていたその付属部品をガス溶断して取り外す作業を行っていた。外壁と付属部品を固定していたL字アングルや配</p>	391	4	1～9

		17	管を溶断していた際に、付属部品が溶断途中の配管を中心に回転し、被災者に向かってきた。被災者とはしごが先に地面に墜落し、仰向けに倒れていた被災者の胸部に付属部品が落下激突したものの。			
2011	6	7	出張の為、自宅から自転車で駅に向かう途中。信号機のない交差点で、軽自動車と出会い頭に衝突し、数メートル飛ばされ向い側の塀に激突。頭部と胸部を強打し、直ちに救急病院に搬送されたが翌日の6月22日15時30分に死亡が確認された。なお、道路幅は約4メートルで、相手車両の走行道路は一方通行であった。	231	17	10～ 29
2011	1	14 ～ 15	自動販売機（重量約260キログラム）の保管のために、フォークリフト（許容荷重1.1トン）を用いて運搬し、保管場所に設置し終えた自動販売機が倒れ、自動販売機とフォークリフトとの間にはさまれて死亡したものの。	612	5	50～ 99
2011	1	12 ～ 13	営業活動のため、社有車にて支店を出発し、得意先へ向い運転走行中、右折のため停車している前車両を追い越す際、対向車線にはみ出し、対向車線より直進してきた中型トラックを正面衝突したものの。	231	17	50～ 99
2011	4	13 ～ 14	（092）3月11日の地震に伴う液状化現象により、鋼材を積んだ倉庫内に泥が隆起したため、泥を除去する作業中に発生。3人の作業員がI形鋼を5段積んだ鋼材の山をクレーンで他の場所に移動させ、当該部分に隆起した泥をスコップで一輪車に積み込み、外に運搬する作業中、隣に積まれていたI形鋼13段（高さ約1m）の山が突然倒れ、近くにいた被災者が下敷きになり死亡した。	521	5	1～9
2011	2	4 ～ 5	被災者は市内にある工場で製品を引き取り、別の市内にある事業場へ納入するため、2月14日夜半にトラックで自宅を出発した。当日は雪が降っていた。その後、2月15日の午前5時30分ごろ鹿沼市高谷1152の県道左側2メートル下の空き地に転落しているトラックが発見された。	221	17	10～ 29
2011	7	21 ～	中国出張中、滞在先ホテル前において車から降車し歩き出した所、スロープ脇のブロックにつまずき頭を強打した。現地の病院に搬送されたが、平成23年7月13日午前0時25分に死亡した。なお、平成24年2月に	418	2	50～ 99

		22	業務上として労災認定したもの。			
2011	12	20 ～ 21	商談終了後、車で降雪により50km規制がされていた高速自動車道を走行中、対向車線にはみ出し、大型トラックと衝突したもの。	231	17	
2011	11	8 ～ 7	商品を得意先に納品後、軽貨物自動車を運転して次の納品先へ配送作業中、下り坂のゆるいS字カーブに差し掛かったところ、何らかの原因により道路中央線を横切り、反対車線の電柱に衝突した。心肺停止の状態での病院に搬送され、約2時間20分後に死亡した。	221	17	30～ 49
2011	7	0 ～ 1	被災者は、平成23年4月に営業部署に異動となり、顧客への商品の紹介、販売を行う営業業務に従事してきたが、発病直前の1ヶ月に168時間56分の時間外労働を行わせたことにより、うつ病が発症し、自殺に至ったものと認定したもの。	921	90	10～ 29
2011	9	14 ～ 15	被災者は、事業場の屋上に設けられた排水口の清掃を行っていた。当該事業場は鉄筋コンクリート造の3階建てで、屋上階の東側が一部セットバックしており、セットバックした屋上部分には手すりが設けられているが、東側張り出した部分には手すりが設置されていない構造となっている。被災者は東側張り出した部分にある排水口の清掃を行うため、手すりを乗り越えたところ、地上（高さ9.28メートル）に墜落した。	418	1	1～9
2011	3	20 ～ 21	被災者は、7tトラックを使用し、複数の事業場から収集した飼料の原料（魚のあら等）を加工場に降ろし終え、当該トラックを運転して翌日の第一収集先事業場に駐車に行く途中、道路中央分離帯に乗り上げ、当該分離帯に植えられていた街路樹に衝突したもの。	221	17	1～9
2011	11	8 ～ 9	右折待ちをしていたターレットトラック（荷物運搬用小型三輪トラック）がタクシーに追突され、ターレットトラックを運転していた被災者が路上に投げ出され、対向車線を走っていた別のタクシーにはねられたもの。	231	17	10～ 29
2011	12	8 ～	商品配達のため道路を北進していた積載荷重800kgの保冷車と、事業場にて荷物を下ろしたのち道路を南進していた積載荷重26700kgト	221	17	10～

		7	トレーラーとが、団地入口付近の道路上にて正面衝突し、保冷車運転手が死亡し、トレーラー運転手が右ひざ等を打撲した。			29
2011	2	9 ～ 10	解体する自動車の残存ガソリンを抜くため、フォークリフトで車体を持ち上げ、燃料タンクに穴を開けてガソリンを容器に受けて回収した後、燃料庫で容器内のガソリンを漏斗を使用してドラム缶へ移し替えていたところ、火災が発生して被災したもの。災害発生後、病院にて加療中、死亡した。	512	16	1～9
2011	7	17 ～ 18	被災者は、当該事業場倉庫において、倉庫作業（資材の整理、掃除）を終え、ふらつきながら退社しようとする被災者の姿を見た事務員が被災者に声をかけると様子がおかしいことから、救急車を要請し、病院に搬送された。その後、死亡が確認されたもの。死亡原因は熱中症と診断された。	715	11	30～ 49
2011	1	8 ～ 9	倉庫内において、フォークの昇降と共に運転席が昇降する型式のフォークリフトを使用して、棚に置かれている製品を降ろそうとしていた被災者が、当該フォークリフトの運転席から約2.5メートル下の倉庫の床面に墜落し倒れているのを、同倉庫内で他の作業を行っていた同僚が発見した。その後、病院へ搬送されたものの災害発生より10日後に死亡したものである。	222	1	10～ 29
2012	5	9 ～ 10	被災者はエレベーター搬器の天井部分と3階床部との間にうつ伏せで上半身を搬器内に入れた状態で挟まれ、救急搬送先の病院で死亡した。なお、扉には開閉リミットスイッチは付いておらず、扉が開いた状態であった。	214	7	10～ 29
2012	1	16 ～ 17	被災者は、油圧ショベルに掴みアタッチメントを取り付けた重機を使用して、出荷する廃棄配電盤をトレーラーに積み込む作業を行っていた。仮置場から配電盤を掴み上げたが、掴み方が不安定だったため、一旦トレーラーの脇に置いて掴み直そうと掴みアタッチメントを離したところ、傾斜して置かれた配電盤が倒れてトレーラーの運転者がその下敷きになった。	611	5	30～ 49
		6	営業所に戻った被災者は、空ケースを所定の場所に下ろし、トラックを停車場所に止めるため場内を移動した。開けたままの荷台後部扉を閉めようと一旦停車し降りたところ、止めた場所が緩やかな下り勾配だったため、			100

2012	6	7	トラックが逸走した。止めようと運転席に乗り込もうとしたが、停車していた別のトラックに接触し、自車の運転席ドアと運転席の間に胸部を挟まれ死亡した。	221	7	299
2012	9	15	被災者はキャップ等が閉まったままのドラム缶を溶断していたところ、ドラム缶が爆発した。	611	14	1～9
2012	4	16	アルミ缶、建設資材等非鉄金属をスクラップする事業場において、スクラッププレスを使用してアルミサッシの切断を行った後、切断したアルミサッシをプレスしようと、同僚がプレス機の稼働ボタン（全自動）を押したところ、被災者がプレスの上蓋と資材投入口の間に首をはさまれ、死亡した。	169	7	1～9
2012	8	8	構内運搬車を運転していた被災者が半開き状態の冷蔵庫のシャッターに激突、救急搬送先の病院で脳挫傷により死亡した。	229	3	1～9
2012	1	9	最大荷重3 t のフォークリフトで荷（古新聞をプレスしたもの）を3段の積み荷の上に積み上げようとしたところ、荷を3段積みの上段の荷に当ててしまい、上段の荷がずれしまった。積み荷の落下の危険があるため、積み荷は一旦下ろし、付近で別の荷の手直し作業をしていたところ、上段の荷（約1 t）が落下し、作業者に激突した。	611	4	1～9
2012	12	2	倉庫として使用している屋根上（床からの高さ約3m）の空きスペース（店舗では2階と呼称、昇降は木製の移動梯子を用いる）から商品を降ろすため、当該スペースに上がった際、被災者はバランスを崩し、当該スペースへ昇降するハシゴ付近から転落した。	371	1	1～9
2012	9	14	製品輸送のクレーム対応のため、休日出勤の後、最寄駅から自転車を運転し帰宅中に乗用車と接触した。	231	17	100 299
			トンネル建設工事現場で、坑口から約1、500m付近に設置されていたコ			

2012	5	10 ～ 11	ントラファン等を点検するために複数の作業員が坑内に入場したところ、トンネル内部に充満していた可燃性ガスに引火し、爆発により全員が死亡した。また、坑外にいた別工事の土木作業員複数名も爆発の飛散物等により負傷した。なお、トンネル工事は休工しており、当日は工事再開に向けた準備を行っていた。	513	14	30～ 49
2012	5	10 ～ 11	トンネル建設工事現場で、坑口から約1、501m付近に設置されていたコントラファン等を点検するために複数の作業員が坑内に入場したところ、トンネル内部に充満していた可燃性ガスに引火し、爆発により全員が死亡した。また、坑外にいた別工事の土木作業員複数名も爆発の飛散物等により負傷した。なお、トンネル工事は休工しており、当日は工事再開に向けた準備を行っていた。	513	14	30～ 49
2012	1	11 ～ 12	高速道路を走行していたところ、渋滞が発生し停車した。その際、後続車両が時速約80 kmの速度で追突してきたことにより、当該事業場の車両が前方車両に追突した。	231	17	10～ 29
2012	4	5 ～ 6	被災者は鮮魚の買い付け等の業務を行っていた。当日は、契約している漁船上から、魚種、漁獲量等の報告を行うため、漁の邪魔にならないよう船首部分で待機していたが、何らかの原因により、近くにあった錨を巻き上げるためのローラーのレバーに触れローラーが動き出し、ローラに巻きつけてあった定置網固定用のロープに巻き込まれて死亡した。	169	7	1～9
2012	9	13 ～ 14	被災者は商品を配送するため、自動車を運転し国道を北進していたところ、対向車線を南進し同交差点を右折してきた軽自動車と衝突、そのはずみで被災者の車の運転席側面が信号機柱に衝突し、内臓破裂により死亡した。	231	17	1～9
2012	10	9 ～ 10	フォークリフトの爪にチェーンを巻きつけ、自動車のエンジン積み降ろし用フックにチェーンのフックをかけ、解体中の自動車の車体前方部分を持ち上げていたところ、被災者が自動車の下部を確認した際、エンジン用フックが重みに耐えきれず変形して自動車が落下し、その自動車の下敷きになり死亡した。なお、当該作業方法は通常方法で不具合が生じたため、	611	4	1～9

			例外的に行った作業方法であった。			
2012	6	9 ～ 10	事業場構内のLPガス充填場において、フォークリフトを使用して配管の塗装作業を行っていた被災者は、フォークリフトのマストとヘッドガードの間に挟まれ意識がない状態で発見され、救急搬送された病院で死亡した。	222	7	10～ 29
2012	2	8 ～ 9	自宅から社用車を使用し、目的地へ向けて高速道路を走行中、トンネル内においてハンドル操作を誤り、対向車と正面衝突し死亡した。	231	17	1～9
2012	10	5 ～ 6	卸売市場において、トラックの荷台で生のスルメイカが入った発泡スチロール製の箱が崩れないよう2名で手で押さえていた。次の場所へ移動するため、トラックをゆっくり走行させたところ、被災者がトラックの荷台から墜落した。	221	1	10～ 29
2012	9	14 ～ 15	廃材として運び込まれた空ドラム缶（有機溶剤容器として使用していたもの）を事業場で使うガラ入れとするために、上部の蓋をくり抜こうとエアープラズマ切断機で作業していたところ、ドラム缶が爆発し被災した。	512	14	1～9
2012	7	3 ～ 4	卸売市場地上1階にある勤務先の店舗から、同市場地下1階にある鮮魚卸売商の水槽（生簀）に活魚を仕入れるため、勤務先所有の自転車に乗り、地上1階から地下1階につながるスロープ（長さ約110m、勾配約4.5度）を下っていたところ、転倒し、コンクリート通路で右側頭部から後頭部にかけてを強打し、急性硬膜下血腫を発症、救急搬送先の病院で死亡した。	239	2	1～9
2012	8	17 ～ 18	被災者は社用車にて交差点を西に向け直進したところ、右折してきた移動式クレーンと衝突した。	221	17	10～ 29
2012	9	16 ～ 17	配達のため国道を社用車で走行中、左カーブにて中央線をはみ出し、対向してきた大型トラックと正面衝突した。	221	17	1～9
2012	9	13 ～	被災者は高速道路で事業場から打ち合わせのため目的地へ向かっていたところ、後方から来た乗用車に追突された。被災者は、右血気胸、両側肺挫	231	17	50～ 99

		14	傷、両側多発肋骨骨折、外傷性くも膜下出血他により死亡した。			
2012	11	11 ~ 12	リサイクル製品を2 t ダンプで搬入した被災者は、2 t ダンプを勾配1度～6度のアスファルト上に停車させ、運転席から降車し、約8m離れた当該処分場事務所に入っていたところ、当該ダンプ車が逸走したため、逸走したダンプ車の進行方向に回り込んだところ、当該ダンプ車と進行方向に停車していた別のトラックとの間に挟まれた。	221	6	1～9
2012	10	18 ~ 19	仕入れた商品を本社に搬送するため、被災者が単独で3 t トラックを運転していた。高速道路を走行中、トラックが道路左側の側壁に衝突し、弾みで中央分離帯のガードレールに衝突して横転し、死亡した。	221	17	10～ 29
2012	12	11 ~ 12	鉄骨造の倉庫を解体する作業現場で、フォークリフトの爪にパレットを差し込み、パレットの上に乗って、地上高さ2.8mで作業を行っていた被災者がバランスを崩し、フォークリフトのマストとパレットの隙間から地面に転落した。	222	1	1～9
2012	1	6 ~ 7	被災者は会社のトラック（高さ2.8m、車両総重量5.195t）によりスーパー流通センターへの納品後、会社に戻る途上、高さ制限（2.5m）のある道路を走行したところ、車の上部が制限桁に激突したことにより、死亡した。	221	17	1～9
2012	6	13 ~ 14	所属事業場の事務所の窓の外側に緑のカーテン（日除け用の植栽）を作る作業を行っていた被災者は、脚立（高さ約2m）とともに地面に仰向けに倒れているところを通りかかった別の作業員により発見された。なお、被災者はヘルメットを着用していなかった。	371	1	10～ 29
2012	6	5 ~ 6	高速道路を走行していた被災者らのトラックが、前方を走行していたトラックに追突した。追突したトラックの助手席に乗車していた被災者が死亡し、運転手は入院加療を要した。	221	17	30～ 49
2012	11	12 ~ 13	被災者は市役所へ行き、用事を済ませ営業所へ戻る途中、信号機のない十字路で乗用車と軽乗用車が衝突し、軽乗用車が横転して近くを歩行中の被災者が軽乗用車の下敷きとなった。	231	17	1～9

2012	9	7 ～ 8	パーテクルボード（1枚約18kg、50枚梱包）をフォークリフトにてトラックから降ろす作業をしていたところ、ボードを留めていたPPバンドが外れ、崩れたボードが対面にいた被災者を直撃した。	222	5	30～ 49
2012	11	15 ～ 16	職員3人と被災者との4人で廃棄用の耐火金庫（高さ144cm、幅78cm、奥行72.3cm、重さ推定約800kg）を撤去するために平台車を用いて移動中、床の段差を乗り越えようと職員3人が金庫を押しした際、反対側でしゃがみこんでいた被災者の上に金庫が倒れて下敷きになった。	611	7	10～ 29
2013	1	7 ～ 8	被災者は、自社製品の敷わらを運ぶため、単独で10トンウイング車を運転し出発した。途中、国道の信号のない交差点で、右折のため停車していたトレーラーに追突した。路面はブラックアイスバーン状態で、トラックがスリップして止まれきれずに追突した。尚、シートベルトの使用状況については不明である。	221	17	10～ 29
2013	6	10 ～ 11	災害発生時、被災者は事業場への配達を終え、別の事業場へ配達を行うため、トンネル内をトラックで走行していた。このとき、前方を大型トラックが走行しており、そのトラックに被災者のトラックが後ろから衝突した。当該事故により、被災者は脳挫傷等で死亡した。尚、トンネル内は片側1車線（幅は約3m）で、ほぼ直線であった。	221	17	1～9
2013	2	4 ～ 5	信号待ちして停車していたトレーラーの後部に、被災者が運転していたトラック（積載荷重2トン）が追突し、その弾みで被災者は頭部を打撲して死亡した。	221	17	30～ 49
2013	5	7 ～ 8	被災者は、廃車車両から抜いて一斗缶に入れてあったガソリンのゴミ（うわばみ）を取り除く作業を行っていたところ、突然、何らかの原因でガソリンが引火、これが被災者に燃え移り、全身火傷を負った。	512	16	1～9
2013	1	8 ～ 9	被災者は、業務用冷凍庫（高さ256cm）の上に乗り、キャスター付きトラック（重さ20kg）を、冷凍庫の上に引き上げた後、冷凍庫の上を整理していたところ、何らかの原因でコンクリート床に墜落した。	391	1	1～9
		14	被災者は、座りながらスクラップ金属の選別作業を行っていたところ、後方を通過した重機（ドラグショベルの先端にハサミ型の解体用アタッチメ			

2013	3	15	ントを取り付けたもの)と接触し、両下肢を履帯(クローラー部)に巻き込まれた。	149	7	1~9
2013	12	15 16	被災者は、コンベヤーの端部のロールに残った紙片を取り除くため動いているコンベヤーに乗った。コンベヤー最上部まで上昇中、一旦コンベヤーが停止、被災者は四つん這いになって歩きながら紙片を拾っていたところ、コンベヤーが再び動き出したため、被災者はコンベヤーの最上部の端部からホッパーに墜落、回転している攪拌機に接触し、死亡した。	169	6	10~ 29
2013	3	5 6	被災者は、会社の商品を得意先に納品するため、自社所有の4トントラックにて会社を出発し、ICを降りて国道を東に向かって運転中、交差点で信号待ちをしていた10トントラックの後部に追突し、死亡した。	221	17	30~ 49
2013	5	8 9	門型クレーンを用いて山留材出荷の段取りを行うにあたり、門型クレーンの軌道の上に3段に段積みしていた山留材があり接触する見立てがついたため、最下段の山留材の一方の端に玉掛けし、他方の端は地切りさせず支点とし、半弧を描く様に一方の端を数10cm移動させたところ、段積みになっていた山留材が崩壊した。状況を把握するため被災者が山留材に近づいたところ、再度山留材が崩壊し、被災者が下敷きになった。	521	5	1~9
2013	4	10 11	業務打合せ中に昏睡し、病院に搬送されたが、急性大動脈瘤破裂により死亡した。	921	90	100 ~ 299
2013	7	8 9	傾斜部(8度)を走行中のフォークリフトが転倒し、運転者が運転席から投げ出され、ヘッドガード部に胸部を挟まれた。	222	2	1~9
2013	7	11 12	被災者は、単独作業にて製紙会社の最終廃棄処分場のため、池に設置された水質計器(pH計)の点検作業に従事していた。その後連絡がとれなくなり、山道から外れた斜面上で、熱中症によりうつぶせに倒れているところを発見された。	715	11	30~ 49
		8	堤防上の道路(市道)において、軽貨物自動車を運転していた被災者は、			10~

2013	2	9	～	交差点を左折する際、後方から進行してきた中型貨物自動車に衝突され、死亡した。	221	17	29	
2013	7	10	～	オートバイ卸売店において、被災者は同僚とオートバイ2段積みトラックの上段からバイクを地上に降ろす作業を行っていた。被災者は、テールゲートリフター上にバイクを載せ、リモコン操作によりテールゲートリフターを下降させていたところ、バイクとともに墜落し、その際バイクが被災者の身体上に落下した。	221	1	1～9	
2013	4	10	～	11	ライトバンにて事業場に向かう途中、センターラインを超え、対向の大型トラックに激突した。	231	17	1～9
2013	6	14	～	15	営業車で国道を走行中、対向車線側へ逸脱し対向車線を走っていたトラックと正面衝突し、頭部を強打した。	231	17	30～ 49
2013	2	10	～	11	被災者は、得意先を回るため自社1トントラックを運転して片側1車線の県道を西方面に走行中、緩やかなカーブになっている所で、センターラインをオーバーし、前方より反対側車線を走行してきた大型ダンプトラックと正面衝突した。	221	17	30～ 49
2013	7	11	～	12	積み荷を待っている際、フォークリフトの後部がパレット積みしていた荷（紙束）に当たり、荷が落ち、被災者が荷の下敷きになった。	222	4	10～ 29
2013	11	13	～	14	フォークリフトを使用して、仮置きされていた廃棄物のプレス機械を移動させる作業が行われていた作業場で、フォークリフト運転士が仮置き箇所から引き出す際、フォークの差し込みが浅かったことから、プレス機械をいったん地面に降ろし、フォークを差し込み直そうとしていたところ、プレス機械を突き倒してしまい、近くを通りかかった被災者がその下敷きとなった。	222	5	10～ 29
2013	3	15	～		被災者は、軽自動車に乗車し事業場へ書類を持参するため国道を走行中、	231	17	50～

		16	緩いカーブで反対車線へ進入してしまい対向車のトラックと衝突した。			99
2013	7	10 ～ 11	敷地内でアルバイト作業員が、同社社員が運転するフォークリフトにひかれ、約1時間後、搬送先の病院で死亡した。尚、フォークリフトで木製パレット17段(約2.4m)を運んでいて、前進した時に発生した。	222	7	10～ 29
2013	5	9 ～ 10	地下に敷設された汚水槽において、汚水槽内に堆積していた汚物(魚の鱗、小魚等)を除去するため汚水槽に入った作業員が意識を失い倒れ、当該作業員を救助するため汚水槽に入った作業員も次々と倒れた。うち1名が死亡した。	514	12	1～9
2013	12	10 ～ 11	長さ約10mの屋根用折板の製造中、成形機から排出された折板を被災者と同僚の2人が持ち上げようと近づいた際、次の折板が排出されたため、先に排出されていた折板に当たり押した。そのため、被災者は、押された折板と背後の鋼板コイルにとの間に胴体をはさまれた。	159	7	10～ 29
2013	1	0 ～ 1	食材をトラックで配送する業務に従事する被災者は、自宅において、急性心筋梗塞を発症した。	921	90	10～ 29
2013	6	9 ～ 10	被災者は、回収した産業廃棄物(電線くず)を、金属とプラスチックに分離する作業場において、プラスチックが入ったフレコンバックを積載型小型移動式クレーンで吊り上げ荷積みする作業を行っていた際、当該クレーンの吊りフックに掛けられたフレコンバックの吊り紐を外す作業を行っていたところ、当該クレーンの荷台上又はフレコンバック上から作業場のコンクリート床上に墜落した。尚、被災者は、保護帽を着用していなかった。	212	1	1～9
2014	12	12 ～ 13	トレーラーを運転中、カーブに進入した際、道路右側の側壁に衝突し、衝撃で車両が横転。死亡した。	221	17	10～ 29
2014	12	5 ～	ゴミ収集車が赤信号で交差点内に進入した際、左側から青信号で走行してきたダンプと出会い頭に衝突。ゴミ収集車を運転していた被災者が車外に	221	17	10～ 29

		6	投げ出され、全身打撲により死亡した。			
2014	12	11 ～ 12	ライトバンを運転し、高速道路を走行中、対向車線を走行してきた高速バスと衝突した。	231	17	10～ 29
2014	11	12 ～ 13	事業場の階段踊り場にて、倒れている被災者が同僚に発見され、外傷性くも膜下出血により死亡した。	413	1	10～ 29
2014	11	14 ～ 15	オークション会場内で、大型トラックの後進誘導中、隣に駐車していたトラックが発進したためその後輪にひかれた。	221	6	1～9
2014	10	8 ～ 9	トラックの荷台に廃車のトラックを積み込み作業中、積み込みにウインチを使用していたところ、ウインチのワイヤーを通していた滑車が壊れ、廃車トラックが荷台の後方に滑り落ち、廃車トラックと後方に停車していたフォークリフトの間に被災者がはさまれた。	379	7	1～9
2014	9	4 ～ 5	トラックを運転し、取引先到着直後、気分が悪くなり、救急車で病院に搬送されたものの、脳幹出血にて死亡した。	921	90	10～ 29
2014	9	12 ～ 13	駐車場で、機械式ごみ収集車を停車し、排出板の不具合を調整しようと、エンジンを始動させたところ、歯止めを乗り越え、走りだしたごみ収集車に轢かれた。	221	7	10～ 29
2014	8	15 ～ 16	斜めに立てかけていた鋼材下部の突出した部分をガス切断作業中、鋼材が被災者に倒れ、鋼材の下敷きになった。	521	5	1～9
2014	7	18 ～ 19	冷蔵庫内に廃棄するハマグリを運び入れていた被災者が、冷蔵庫のドアに頸部を挟まれている状態で発見された。	419	7	10～ 29
		12				10～

2014	6	～ 13	施工管理業務中、くも膜下出血により死亡した。	921	90	29
2014	6	9 ～ 10	古紙をプレス機（圧縮機）で固める作業中、被災者はホッパー投入口でホッパー内に貼り付いた古紙を竹箒で剥がしていたところ、停止していたベルトコンベアが動き出し、ホッパーへ転落し、プレス機（圧縮機）内で全身を挟まれた。	419	1	10～ 29
2014	5	5 ～ 6	被災者が、自宅トイレで倒れているのが、発見され、病院へ搬送されたが、心筋梗塞により死亡した。尚、発症前6ヶ月間の平均の時間外労働は約95時間45分であった。	921	90	～ 299
2014	4	15 ～ 16	廃棄物置場にて、ドラグ・ショベルを運転し、旋回後直進した際、ドラグ・ショベルの前方に被災者が倒れていたのが発見された。	142	6	1～9
2014	4	11 ～ 12	食事中に倒れ、救急車で搬送され、入院先の病院で脳出血により死亡した。	921	90	1～9
2014	4	17 ～ 18	壇上でスピーチを行っていたところ、倒れ、急性大動脈解離で死亡した。	911	90	10～ 29
2014	3	12 ～ 13	移動式クレーン機能付きトラックで、荷台への制御盤の積み込み作業を行っていたところ、制御盤が荷台から落下し、下敷きになった。	612	4	1～9
2014	3	17 ～ 18	被災者は、港岸壁にて、客先の船が商品である土を積み込んだ際、こぼれ落ちた土をホイールローダーで集積する作業をしていた。その後、岸壁付近の海中から被災者が乗った状態のホイールローダーが発見された。	141	1	1～9
2014	3	13 ～ 14	被災者は、社用車で営業活動を行なっている時間帯に、港にて車両ごと沈んでいる状態で発見された。	231	10	1～9

2014	2	18 ～ 19	帰社のため、被災者一人で国道中央寄り車線を普通貨物自動車で行中、 停車している大型貨物自動車に追突し、外傷性心肺停止により死亡した。	231	17	50～ 99
2014	1	0 ～ 1	被災者は、社用車で営業に出たまま帰社せず連絡が取れなくなったため、 家族が警察に捜索依頼を行ったところ、翌日、警察官により、社用車内で 自ら頸部切創により失血死しているところを発見された。	921	90	30～ 49
2014	12	21 ～ 22	1台の社用車に営業職4人が乗って会社へ戻る途中、前方を走行していた 車輦が停車した。前方車輦の運転手が「ライトが眩しい」と文句を言って きたところ、4人が乗った車輦に後続車（トラック）が追突し、後部座席 に乗っていた被災者と同僚の2名が死亡。運転手と助手席の2名が負傷し た。	231	17	100 ～ 299
2014	12	21 ～ 22	1台の社用車に営業職4人が乗って会社へ戻る途中、前方を走行していた 車輦が停車した。前方車輦の運転手が「ライトが眩しい」と文句を言って きたところ、4人が乗った車輦に後続車（トラック）が追突し、後部座席 に乗っていた被災者と同僚の2名が死亡。運転手と助手席の2名が負傷し た。	231	17	100 ～ 299
2015	10	20 ～ 21	出張中、信号機付交差点を横断時に右折してきた乗用車にはねられ、翌日 死亡したもの。	231	17	1000 ～ 9999
2015	7	3 ～ 4	野菜を積んだワンボックス型バンを運転して自宅を出発し、事業場に向け 国道を走行中、前方を走行していた大型ダンプトラックに追突したもの。	221	17	1～9
2015	11	10 ～ 11	事業場が所有している土地において、被災者がミズナラの立木（胸高直径 約90センチメートル）の枝の付け根に足を掛け、手のこを使用し直径約 20センチメートルの枝を切っていたところ、切っていた枝が裂けて当た り、昇降用の梯子の上を滑るようにして約3メートル下の地上に転落し た。	712	1	1～9
			被災者は事業場内の荷捌き場にてフォークリフト（最大荷重：1000k			

2015	4	15 ～ 16	g) を用いてトラックから荷物を降ろす作業に従事している際に、トラックの荷台奥に積まれている荷物（重量：約800kg）をワイヤーロープを使用しフォークリフトにて荷台手前まで牽引していたところ、フォークリフトがバランスを崩し右側に大きく振れたため、フォークリフトから投げ出され建物の柱に激突したものの。	222	3	1～9
2015	5	8 ～ 9	被災者は、海外に輸出するための自動車部品を物色するために取引先の自動車解体業者の解体ヤードを訪れたものであるが、8時35分頃、廃車として置かれていたフォークリフトのマストと、その横にあったもう1台の廃車フォークリフトのヘッドガードの間に挟まれているのを後から来た会社代表者が発見したものである。目撃者なし。	521	7	1～9
2015	11	11 ～ 12	配達のためトラックを運転中、別の追突事故により追越車線に停車中だった大型トラックに追突し、同日死亡した。	221	17	10～ 29
2015	10	3 ～ 4	平成27年10月8日午前3時30分頃、被災者は、卸売市場内において、ターレー（構内運搬車）に乗って、タイムカードを押すため、その設置箇所に向かった。ターレーを運転している被災者は、市場内の段差箇所に気付かず、ターレー左前側ガードが当該段差箇所に衝突し、ターレー運転位置の左側から投げ飛ばされ、前頭部を地面に打ち付け被災した。（平成27年12月24日午前死亡）	418	3	100 ～ 299
2015	3	17 ～ 18	米の倉庫兼精米工場内において、米を精米する設備の一部である昇降機点検地下室内で事業主と労働者の2人が倒れていた状況で発見されたもの。救急隊が2人を昇降機点検地下室内から搬出する際、昇降機点検地下室内の酸素濃度は約11%であった。	519	12	1～9
2015	3	16 ～ 17	事業場構内の土場において、構内で使用している樹皮運搬用のトラックを移動させようとした際に、当該トラック上から地面に転落し、頭部を負傷したものの。被災労働者は災害当日の晩に意識不明となり、2日後に急性硬膜下血腫により死亡した。なお、被災労働者がトラックのどの場所から転落したのかは不明である。	221	1	10～ 29

2015	11	14 ～ 15	製品である圧縮した古紙の塊（大きさ1 m×1 m×2 m、重量：約1 t）48個を搬出前に工場内で6段に積み上げて保管していたが、被災者が工場床の清掃作業をしている際にこれが崩壊し、その下敷きとなったもの。	611	5	10～ 29
2015	3	13 ～ 14	顧客先の荷物用昇降機（積載荷重200 kg表示）のモーターを交換するために、点検・確認作業を行っていたところ、モーターと巻き上げ機の軸継手が破損し、破片が点検作業員である被災者の頭部に激突したもの。 (単独作業であった)	214	4	30～ 49
2015	7	14 ～ 15	廃車の燃料タンクからガソリンをペール缶に移し替え、蓋をしないままペール缶を貯蔵庫へ運んでいた際、何らかの原因によりガソリンに引火し、全身やけどを負った。	512	16	1～9
2015	3	14 ～ 15	倉庫内2階にて、製品を梱包した箱を台車に乗せてエレベーターで1階まで移動させようとエレベーターの扉を開けたところ、搬器が3階にあったため、前方開口部から台車ごと1階エレベーターピットに墜落し（高さ4.3メートル）、死亡したもの。	214	1	10～ 29
2015	1	11 ～ 12	病院に医薬品を納品するために、社有車で高速自動車道を走行中、スリップ事故を起こし、弾みで中央分離帯に衝突し追い越し車線で停車していたところに後続の大型トラックが追突した。	221	17	100 ～ 299
2015	6	11 ～ 12	バンタイプの乗用車で隣の市内へ食材の配達をするために国道を走行中、橋上でセンターを越え、反対車線にはみ出したため、逆方面から対向してきたコンクリートミキサー車と正面衝突し、全身打撲により死亡した。コンクリートミキサー車の運転手は、頸部・腰部・左肩の挫傷、右肩の切創を負った。	231	17	10～ 29
2015	2	12 ～ 13	スキーウェアを卸している取引先の小売店が、販売イベントを行うため、被災者が手伝いとして現場に赴き、スキー場内の下見を、小売店の者と2人でスキーを履いて行っていた。スキーで移動中、突然大きな音がしたため、小売店の者が振り向くと、被災者が立ち木のそばに倒れており、病院に搬送して治療したものの、2日後に死亡したもの。	712	3	10～ 29

2015	6	11 ～ 12	<p>金属リサイクル業者の敷地内において、金属買取り業者の被災労働者がトラック納品のため入場、Y社の労働者2名が2機の重機を使用し荷降ろしを開始、作業を終了しようとしたところ、トラックの荷台の上に被災労働者が倒れているのが発見されたもの。当該作業の際、被災労働者が荷台に立ち入るのを現認したものはいない。なお被災労働者の労働者性については現在調査中である。</p>	212	6	10～ 29
2015	12	15 ～ 16	<p>トラックのタイヤ交換後、交換し終えた夏タイヤを当該トラックに積み込むため荷台後方の観音扉を開けたところ、荷台内の扉に立て掛けてあったコンパネ11枚が倒れ、被災者も仰向けに倒れた。病院へ搬送後の12月5日8時15分に死亡が確認された。</p>	522	5	1～9
2015	8	7 ～ 8	<p>太陽光発電工事に伴う現地調査の現場において、被災者が運転する10tセルフトレーラーにてドラグショベルを搬入し、ドラグショベルを荷台から降ろすため、同僚が荷台脇にある荷台上昇ボタンを操作しているとき、後方から音が聞こえたため振り返ると、被災者が車道に仰向けで倒れていた。被災者は運転席から後ろ向きで降りようとした際に、運転席から転落したもの。入院加療中だったが、9月23日に死亡した。</p>	221	1	10～ 29
2015	4	12 ～ 13	<p>被災者は1tトラックを運転し、配達中、トンネルの出口付近の緩やかな左カーブにおいて、中央線をはみ出し、対向のトレーラーと正面衝突し、外傷性ショックで死亡した。トレーラーの運転手は軽傷である。</p>	221	17	10～ 29
2015	8	19 ～ 20	<p>事業場内において、粒度分別用の網（重さ1トン）の補修作業を行うため、トラクターショベルのバケットの爪で網の端部を引っ掛けてつり上げ、網をほぼ垂直に立て、網の下部を地面に降ろした状態で番線の増し絞め作業を行っていたところ、バケットの爪から網が外れ、被災者の方に倒れて下敷きになった。</p>	141	5	10～ 29
2015	3	0 ～	<p>被災者は建設機械の修理・点検業務に従事。平成26年から作業ミスが目立ち、その都度上司等に注意、叱責を受け、平成27年1月末に自信喪失し辞表提出したものの、慰留され撤回。同年3月12日朝、家族に出勤すると告げたまま行方不明となり、同月14日午前自車両内で練炭を燃焼さ</p>	921	90	30～ 49

		1	せ一酸化炭素中毒により死亡しているところを発見された。なお、所定労働時間を超える勤務も行ってた。			
2016	12	8 ～ 9	青果場の敷地内に止められた乗用車の後方で、頭部から出血し倒れている被災者が発見された。被災者は、病院にて治療を受けていたが、翌日死亡が確認された。	719	2	10～ 29
2016	12	14 ～ 15	営業の打ち合わせが終了し、社用車を運転して事業場に帰社途中、インター出口より約200m手前地点で、インター出口に降りる左回りの下りカーブを走行中、ハンドル操作を誤り、右側の中央分離帯を乗り越え、対向車線に飛び出し、前方から走行してきた対向車（トレーラー）と正面衝突し、全身を強打し死亡した。	231	17	1～9
2016	12	13 ～ 14	収集車（パッカー車）から古紙（ダンボール）が搬出されるのを監視していた被災者は、ボデー（荷台部）から古紙が搬出されたあと、後方ホッパー部に近づき、ホッパー部回転板に頸部から上がはさまれた。	229	7	1～9
2016	12	7 ～ 8	配送のため、軽貨物車を運転中、道路脇の立木に激突し、胸部を強打し、肺挫傷を負った。	221	17	10～ 29
2016	11	6 ～ 7	町道において、被災者が運転する軽トラックとワゴン車が正面衝突し、衝突後、軽トラックは約4.2m下の河川敷に転落した。被災者は病院に搬送されたが、間もなく死亡した。	221	17	1～9
2016	11	14 ～ 15	被災者が、事業所内ヤードの整備にて、別事業場所属の労働者が運転する解体用機械のアタッチメントの上に乗し、ヤード入口門扉の溶接作業を行っていたところ、解体用機械のブームが上昇し、アタッチメントと門扉の梁の間に挟まれた。	145	7	1～9
2016	11	15 ～ 16	高速道路下り線のサービスエリアの駐車場において、トラックの後部荷台にて商品の整理を行っていた被災者がサイドブレーキを引き忘れたため、トラックが後進し、気づいた被災者が荷台から降りたところ、後方に駐車していた大型トラックとの間に身体をはさまれ死亡した。	221	7	10～ 29

2016	10	14 ～ 15	自動車専用道路の直線対面通行区間において、被災者の運転する乗用車が進行方向左側のガードロープに接触し、その反動で対向車線にはみ出し、対向車線を走行していた乗用車と正面衝突した。	231	17	1～9
2016	10	9 ～ 10	ガラスを積載したガラス運搬用のパレット2基（ガラスを含んだ合計重量約1.2t）を天井クレーンで吊り上げていたところ、ワイヤーロープで玉掛けしていたパレットの枠が外れ、パレットとガラスが床に落下して倒れた。当該クレーンを操作していた被災者が、倒れたパレットの下敷きになって死亡した。	379	4	1～9
2016	9	17 ～ 18	自動車道下り線において、訪問先の客宅から営業所に戻るため社用車（軽自動車）を運転中に単独事故により進行方向左側の路外に逸脱し、自動車道横の土手に衝突し死亡した。	231	17	10～ 29
2016	9	8 ～ 9	資材置場に仮置きされていた束ねた金属スクラップ品をフォークリフトで吊り上げて別の資材置場へ運搬中、フォークリフトの前方で吊り上げられた金属スクラップ品が振れないよう押さえながら移動していたところ、被災者が転倒し、フォークリフトの前輪に轢かれた。	222	17	1～9
2016	8	13 ～ 14	被災者は、会社の休日に出勤し、盗難防止用にアウトリガーを張ったトラック（積載形トラッククレーン付き平ボディー）の洗車作業中、当該トラックを移動させるため、トラックのエンジンを掛けて降りた後、アウトリガーのスイッチを操作し、アウトリガーを上昇させ地切りしたところ、当該トラックが逸走し、隣に駐車していたトラックのキャビンと当該トラックのアウトリガーに挟まれた。	221	6	1～9
2016	8	2 ～ 3	被災者が4トントラックを運転し、事業場から大市場へ鮮魚を運送した後、高速を利用して事業場へ戻っていたところ、前方を走行していたトレーラーに衝突し、被災者が車内から投げ出された。	221	17	1～9
2016	8	13 ～ 14	被災者は、4トントラックを運転し、店舗に紙製品を配送した後、帰社するため道路を走行していたところ、渋滞のため停車していた最後尾のトレーラーの後部に追突し、被災した。	221	17	10～ 29
		22	本社所有の普通貨物自動車を返却するため、事業場から本社へ向け、当該			

2016	7	～ 23	自動車を運転していたところ、赤信号で停止していた大型トラックに追突した。	221	17	10～ 29
2016	6	～ 11	取引先で、木材チップをトラックに積込作業中にトラック荷台から、チップ排出口を経由してサイロ内に立入り、排出口の蓋を足場として、農業用フォークでサイロ内に残っていた木材チップ掻き出していたサイロ内の木材チップが崩壊し生き埋めとなった。	522	5	1～9
2016	6	～ 11	被災者がペットボトルを圧縮し、減容する機械の投入口に何らかの理由により扉を閉めずに頭を入れたところ、加圧板が下降し、加圧板と投入口の下端に挟まれ、頭部と両上肢が離断された。	169	7	1～9
2016	5	～ 9	8 同僚が運転する社用車の後部座席左側に座り会社から営業先へ向かっていた際、交差点において、運転していた同僚が一時停止の表示を見落とし交差点に進入した際、右から走行してきた車と衝突し、その後さらに左から来た車とも衝突。その衝撃で全身を強打し、脾臓破裂により死亡した。	231	17	30～ 49
2016	3	～ 15	14 被災者は、同僚と自動車を運転して、客先まわりをしている途中、片側一車線の緩やかなカーブで、被災者が運転していた軽ワンボックス車が南進、ダンプカーが北進中、軽ワンボックス車がセンターラインをオーバーして、反対側車線のダンプカーと衝突した。被災者は心肺停止の状態であったが、午後4時過ぎに亡くなった。	231	17	1～9
2016	2	～ 13	12 重油の配達先において、高さ約2.8mの重油タンクに給油するため、タンクの側面に固定されているタラップに足をかけて作業を行っていたところ転落し、コンクリート製の防油堤の淵に頭部を強打した。災害後意識があったが、2日後、病院で死亡した。	418	1	10～ 29
2016	2	～ 7	6 顧客に養殖鯉の活魚100kgを2tトラックで配達後、事業場へ戻るため、県道を走行中、片側1車線の直線道路で、被災者が運転するトラックが横滑りし、道路左側の電柱に運転席側面から衝突。被災者は、頭部・胸部を負傷し、救急搬送されるも18時間後、搬送先の病院で死亡した。	221	17	1～9
		10	ターレー運転中にエレベーターの乗場戸に衝突したため、戸が破損、生じ			

2016	1	～ 11	た開口部から墜落し、約 8 m 下の搬器上へ激突した。	229	1	1～9
2017	12	～ 9	被災者は、市道の脇に出された古紙を回収する作業中、徐行運転する古紙回収用の収集車両（ごみ収集車）の左後輪に腰をひかれた。路面は凹凸のある凍結路面で、車道と歩道の区別がつかない状況であった。	221	17	1～9
2017	10	～ 14 15	労働者 A は会社構内でヒアブと呼ばれる移動式クレーンを積載した 20 t 貨物トラックを後方左側にバックしながら走行中、当該車両後方左側にあったプレス場の外部柱付近にいた被災者に気付かないまま走行し、当該車両後方左側のバンパー部分が被災者に激突した。その後、被災者が俯せに倒れたところに当該車両がバックで走行したため、被災者は当該車両に轢かれて負傷し、その後死亡した。	221	6	10～ 29
2017	9	～ 12 13	営業で被災者 1 名が社用車を運転して片側 1 車線の高速道路を走行中、片側交互通行の規制中のため停車していた車 A、車 B の後ろに停車したところ、後方から走行してきたタンクローリー車に追突され頭部損傷により死亡した。	221	17	10～ 29
2017	7	～ 14 15	業務用食材、調理機器等の卸売を行う事業者の営業技術職者が、担当先店舗（洋菓子店）の移転に伴い、旧店舗から新店舗へ移設し仮設置した機器等の立ち上げ動作確認や位置調整作業を行っていたとみられるところ、業務用食器洗浄機（200V）を側面下方からのぞき込んでいるような体勢で感電し、呼吸が停止している状態で発見された。救出後、心肺蘇生を行い救急搬送されたが、意識不明の状態が続き、死亡した。	169	13	50～ 99
2017	7	～ 2 3	自宅の布団上で心肺停止の状態のところを被災者の妻が発見し、救急搬送されるも死亡した。	921	90	1～9
2017	6	～ 10 11	出張先の外国において、得意先との食事会の後、宿泊しているホテルに戻り、ホテルの窓から墜落し、死亡した。	418	1	50～ 99
		12				

2017	6	～ 13	被災者は配達作業に従事していたところ、国道において、渋滞停止中のトラックに追突し、救急搬送されたが、死亡が確認された。	221	17	10～ 29
2017	4	～ 15	14 倉庫のスレート屋根の破損箇所にブルーシートを掛けるため、スレート屋根上を移動していたところ、スレートを踏み抜き、約6メートル下のコンクリート床面へ墜落した。	415	1	1～9
2017	4	～ 18 19	被災者は朝8時頃、自宅の風呂の中で意識不明の状態で見つされた。その後病院へ搬送されたが、翌日死亡。死因は「くも膜下出血」であった。被災者は死亡前々日事務所2階への昇降階段下空間部の物入れ内にて、荷を抱えて立ち上がりながら振り向いた際、高さ1.3mの位置にあった梁に前額部をぶつけた。その時は被災者本人が「たんこぶ程度」と言い帰宅していた。	415	3	1～9
2017	4	～ 8 9	8 配送先の敷地内で、商品納入のため、荷下ろし作業を行っていたところ、2トントラックの荷台から墜落し、頭部を負傷（頭蓋骨陥没）し、死亡した。	221	1	10～ 29
2017	3	～ 6 7	6 午前6時頃、崖下に大型ダンプが転落しているのを通行人が発見した。警察により当該ダンプ運転手が車両の下敷きで発見され、死亡が確認された。	221	17	1～9
2017	3	～ 12 13	被災者は昼休み後に2号倉庫の西側に出来た雪庇を落とす作業を一人で開始した。東側に設置されているタラップ下部に開いた脚立を掛けて屋根に登り、西側の屋根に飛び出た雪庇を南側から北に向かって切り落とした後、北側の角付近から6.61m墜落した。	415	1	1～9
2017	3	～ 14 15	被災者が、フォークリフトで、フォークにペットボルトの圧縮品を上げたまま運搬中、後方旋回させたため、バランスを崩し右横転した。被災者は、フォークリフトから投げ出され、フォークリフトの下敷きになり病院に搬送されたが、死亡した。	222	2	30～ 49
2017	2	～ 10	小型トラックでの商品配達を終え、事業場へ戻るため県道を走行中、対向車線を走行中の大型トレーラーが運転操作を誤り、路肩の縁石に左前輪が	221	17	10～

		11	接触してパンクし、センターラインを越え対向車線にはみ出したため、被災者が運転する小型トラックと正面衝突した。			29
2017	1	10 ～ 11	舗装工事中用振動ローラー（重量580Kg）にチェーンを掛けフォークリフト（2.5t）でつり上げ、走行してコンテナ内に積み込もうとしていた。同僚が運転するフォークリフトを被災者が誘導していたところ、フォークリフトに激突され、フォークリフトのマストとコンテナ入口の内壁の間に頭部をはさまれた。	222	6	1～9
2017	1	4 ～ 5	2階更衣室で1階からの異音に気付いた同僚が、1階に通じる階段を降りていたところ、同階段の最下段付近で仰向けに倒れている被災者を発見した。	413	1	50～ 99
2018	12	14 ～ 15	フォークリフトを用いて農業機械の運搬作業に従事していた労働者が、横倒しになった当該フォークリフトのフォークに頭部を激突され、死亡したものの。	222	6	1～9
2018	11	20 ～ 21	出張からの帰宅途中、高速道路上で被災者の運転するワゴン車が中央分離帯のガイドレールに接触し、横転した際に車外に放出されたもの。	231	17	100 ～ 299
2018	11	12 ～ 13	被災者は、配達先から帰社するため、国道を3トントラックで走行していたが、緩やかなカーブにさしかかったときに対向車線にはみ出し、対向車線を走行していた10トントラックと正面衝突した。被災者は病院に搬送されたが、後日死亡した。	221	17	10～ 29
2018	11	20 ～ 21	事業場の3階にある製品倉庫から簡易リフトを使用して1階に製品を降ろしていたところ、何らかの理由で、荷卸し口の柵の外側から下降する搬器内に身を乗り出し、当該簡易リフト搬器内の天井と荷卸し口の柵との間にはさまれた。	214	7	10～ 29
2018	10	12 ～	取引先の事業場に鉄製の網パレットを引き取りに行った被災者が、取引先事業場の敷地内に停めたトラックの近くで倒れていたところを発見され、収容先の病院で死亡したものの。目撃者はいないが、取引先事業場の敷地内で3tトラックの荷台に網パレットを積み込み、荷崩れ防止のために、	221	1	10～ 29

		13	ロープを使った網パレットの荷締め作業中に、足を滑らせ荷台から転落し頭部を強打したものと推定される。			
2018	9	10 ～ 11	自動車道上り線を走行中、被災者の運転する1.5トントラックが左側の法面に乗り上げ横転し、死亡したもの。	221	17	1～9
2018	9	8 ～ 9	破砕されたダンボールを手作業で圧縮式ごみ収集車に積み込む作業を行っていたところ、ホッパー内のプレスプレートに全身をはさまれたもの。	221	7	10～ 29
2018	8	4 ～ 5	商品運搬車（モータラック）で南方向に走行中、運搬車から振り落とされ、頭部を強打した。その後入院していたが、後日死亡したもの。	229	17	10～ 29
2018	7	14 ～ 15	被災者は、取引先においてトラックの鳥居部に取り付けられている昇降はしごの真横（真下）で倒れているのを発見されたもの。現認者はいないため、推定ではあるが、荷台のシートが剥がされデッキに収納されていたことから、シートを収納後にトラックから降りようとした時に誤って転落したものと推定される。なお、被災者は保護帽未着用であった。	221	1	1～9
2018	7	6 ～ 7	立体駐車場3階において、バイクに乗って仕事であった被災者が南北方向に、他社の車両が東西方向に走っていたところ、出会い頭に衝突し、後日被災者が死亡したもの。	231	17	1～9
2018	6	16 ～ 17	井戸水を電動ポンプで吸い上げて圧力タンクに貯水し、タンクの内部圧力で営業所内のトイレ等に供給する方式の自家用水道施設（屋外設置型）において、前日に発生した断水状況を営業所長が点検していたところ、圧力タンクが突然破裂し約10m弾き飛ばされて意識不明となり搬送先病院で死亡が確認された。圧力タンクは元の場所から約16m離れた地点に飛んでおりタンクの内部は著しく腐食していた。	319	15	1～9
2018	4	8 ～	災害発生現場となった事業場において火災が発生し、設備に被害が生じたため、被災者は別の電気工事業者と共に災害発生現場となった事業場を訪	513	12	1～9

		9	問し、打ち合わせ後に単独で設備の点検作業を行っていたが、砂型を再利用する設備のタンク内で死亡している状態で発見されたもの。			
2018	3	14 ～ 15	取引先相手から嫌がらせや暴言を継続的に受け、パーキングエリア駐車場において死亡しているところを発見されたもの。	921	90	10～ 29
2018	2	4 ～ 5	被災者は、D型ハウス内に保管されていた牧草ロールのはい崩し及びトラックへの積み込み作業に従事していたところ、牧草ロール1個（重量約350kg、直径1.6m×幅1.2mの円柱型）に仰向けで下敷きになった状態で、牧場代表者に発見されたもの。牧草ロールは3列分（3～4段、33個分）が倒壊していた。	611	5	1～9
2018	2	10 ～ 11	被災者が、倉庫2階の開口部近傍にて商品の仕分け作業中に、何らかの拍子で開口部から墜落したもの（高さはGLから2FLまで4.175m）。	414	1	100 ～ 299
2019	12	10 ～ 12	商品の誤配が判明し、客先に商品を配達する必要が生じたが、配達用のトラック等が全て出払っていた。そのため、被災者は通勤用のバイクで配達することとし、自動車道を走行中、緩やかな上りの左カーブ付近で右側の側壁に衝突し被災、死亡したもの。	231	17	30～ 49
2019	12	14 ～ 16	廃プラの圧縮梱包機の上投入口付近にて、フォークリフトでフレコンを載せたパレットを上昇させ、被災者がフレコンを押し出して投入口に入れたところフレコンが詰まってしまったため、カッターを使用してフレコンの一部を開け、フレコンを足で押し込んでいた際に、何らかの事由によりフレコンとともに下部まで墜落し、自動運転となっていた圧縮シリンダーが起動して圧縮する部分と機械内壁との間に身体を挟まれ死亡した。	611	1	10～ 29
2019	11	16 ～ 18	事務所で事務作業を済ませた被災者は、倉庫のシャッターを閉めるため、一人で事務所を出て行った。30分経過しても被災者が事務所に戻ってこない事を心配した同僚が事務所の窓から倉庫を見たところ、シャッターが開いたままであったので不審に思い、倉庫に行ってみたところ、倉庫内において被災者が意識もうろうとした状態で座り込んでいた。病院へ救急搬	416	2	1～9

			送されたが、翌日病院にて死亡した。			
2019	11	14 ～ 16	古紙リサイクルのための紙プレス機の清掃作業中に、紙プレス機のシリンダーに胸部と頭部を挟まれ、死亡したものの。	169	7	10～ 29
2019	11	18 ～ 20	当該事業場構内の冷凍庫東側に設置している機械室の2階で、炭酸ガスの受液器の安全弁を取替えていた被災者が横向きに倒れているのを発見された。	519	12	50～ 99
2019	10	6 ～ 8	高速を走行中に2 tトラックの右前輪がバーストした。片側2車線の左端に停車し下車した運転手は、トラックの前に立ちタイヤの状況確認をしようとして電話していたところ、後方より4 tトラックが追突した。追突された2 tトラックに押し出されて後方へ転倒した運転手は、2 tトラックの下敷きとなり、入院治療を行っていたが、後日脳挫傷により死亡した。	221	17	100 ～ 299
2019	9	8 ～ 10	被災者は、商品（機械設備）の納品先にて、業者複数名で行う移動式クレーン（トラッククレーン）による搬入作業に立ち合っていた。同クレーンの荷台から荷下ろしする際に、玉掛けのバランスが悪かったため、スリングを掛け直したものの、荷が傾き、被災者は荷揺れを防止しようと荷の脇に支えに入ったところ、荷崩れを起こし、頭部に接触したものの。被災者は、同日に重症頭部外傷等により死亡した。	379	4	300 ～
2019	7	12 ～ 14	被災労働者が店舗の駐車場で荷受けのために待機していたところ、後退してきたトラックの運転手がペダル操作を誤り、トラックが後退して壁に激突した。被災労働者はトラックと壁との間に挟まれ、外傷性脳障害により死亡した。	221	6	1～9
2019	5	6 ～ 8	パレットに積まれた凍結された10段積み（床面からの高さ171cm）の飼料の上にフォークリフトで更に2段を積み上げて12段積みにする作業の際、10段積み（床面からの高さ171cm）に乗っていた被災者（保護帽なし）が墜落したのち心肺停止状態となり、その後、搬送先で自立呼吸ができなくなったのち死亡が確認された	611	1	100 ～ 299

2019	5	12 ～ 14	被災者が、国道の交差点の横断歩道上を青信号で西から東に向かって歩いていたら、国道を北進する軽自動車にはねられて被災し、同日の夜に外傷性脳出血により死亡した。	231	17	1～9
2019	2	14 ～ 16	被災者は、トイレに行くために作業場所から事務所へ敷地内を歩行していたところ、後方から走行してきた同僚が運転するフォークリフト（最大荷重：3,550kg）に激突されて、倒れた後、当該フォークリフトの前輪に胴体をひかれた。	222	6	10～ 29
2019	1	14 ～ 16	自動販売機の保守点検業務を行うため、ワゴン車を運転して道路を走行中、対向車線にはみ出してトタン塀に衝突し、出血性ショックにより死亡したもの。	231	17	10～ 29
2020	12	12 ～ 14	地上からの高さが110cmのトラッククレーンの荷台上で、資材倉庫2階から投下された重さ約16キログラムの断熱材を荷台上に並べる作業を行っていたところ、投下された断熱材が荷台上で跳ね上がって被災者に激突し、被災者が荷台上から墜落し、頭部を地面に強打したもの。	611	6	10～ 29
2020	12	14 ～ 16	被災者は、植木畑で車両系建設機械を用いて、バンドで固定し植木を吊り上げ走行していたところ、車両系建設機械が転倒し、運転者である被災者が運転席から投げ出され死亡したもの。	145	2	1～9
2020	11	14 ～ 16	工場建屋外で作業員がトラックからエンジンを取り外すため、ガス溶断機でプロペラシャフトを切断したところ、後輪のサイドブレーキが効いていない状況となり、トラックが後方傾斜地に流れたことから、それを止めようとした被災者が巻き込まれ、トラックの左後輪に轢かれたもの。	221	7	1～9
2020	10	8 ～ 10	廃棄段ボールを圧縮成形した梱包品（100×100×180cm、重量約980kg）のはいについて、出荷のため運送事業者の運転者がフォークリフトを運転し、はいくずし作業をしていたところ、フォークリフトで横づかみした3段目の梱包品の上に位置していた4段目の梱包品が325cmの高さから落下し、段ボールの油染みの有無確認及び除去作業をしていた被災者に激突したもの。	222	4	10～ 29

2020	10	12 ～ 14	3 K L タンクローリー車を運転して重油等を配送した後、事業場が賃借している駐車場（ガレージ）に駐車して何らかの作業を行っていた被災者が、当該タンクローリー車の後方車体部と、駐車場前面の山道を挟んだ山林の法面との間で挟まれている状態で発見されたもの。	221	6	1～9
2020	10	12 ～ 14	高速道路上で、加害者の運転するトラックが集中工事のための渋滞で停車していた被災者の運転するトラックに衝突し、その勢いで被災者のトラックがさらにその前方に停車していた大型トラックに追突したもの。	221	17	1～9
2020	10	14 ～ 16	納品のため軽ワゴン車運転中、対向車線にはみ出し、大型ダンプトラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2020	9	8 ～ 10	高速道路の路肩に自動車を停車し、運転席から降りたところ、後続車にはねられたもの。	231	17	10～ 29
2020	9	14 ～ 16	フレコンバックにフィルムを詰める作業において、使用していた1. 27 t ある円柱状の鉄柱がフォークリフトのフォークから落下し、フレコンバックの周囲でこぼれたごみをフレコンバックに詰めていた男性従業員に落下し、下敷きになった。	222	4	1～9
2020	9	10 ～ 12	事業場敷地内に停車していた車両重量3090kgのトラックが突然逸走したところを目撃した被災者が、逸走したトラックに並走しながらトラック前方に向かって駆け寄ったところ、当該トラックとその前方にあるコンクリート壁との間に挟まれ、搬送先の病院で死亡した。当時、トラックには約800kgの荷が積まれた状態だった。	221	7	10～ 29
2020	7	20 ～ 22	被災者は自宅の浴室内で倒れ、救急搬送先の大学病院で夜に死亡が確認されたもの。	921	90	1～9
2020	6	12 ～	被災者はパッカー車で古紙を回収し、支所で古紙を下ろした後、再度、古紙を回収しながら本社に戻る予定であった。労働者が古紙の回収から支所に戻ってきた際に、被災者のパッカー車が古紙回収ベラーに横付けされ	169	1	1～9

		14	ているが、被災者の姿が見当たらなかったため付近を捜した結果、圧縮された古紙の中に被災者を発見したものの。			
2020	4	16 ～ 18	倉庫内の中二階構造物に立て掛けられた移動はしごの付近に被災者が倒れており、死亡が確認されたものである。	371	1	30～ 49
2020	3	12 ～ 14	被災者は、自宅から、貸与されている社有車を運転して営業先を回っていたが、国道（片側1車線）を走行中に対向車線にはみ出し、対向してきたトラック（積載荷重4トン、積載型小型移動式クレーン付）と正面衝突したものの。被災者が運転していた車両は大破し、トラックの運転手は打撲を負った。	231	17	30～ 49
2020	3	10 ～ 12	被災者と同僚が客の方へ向かうため事業場内の通路を歩行中、被災者の前を歩いていた同僚が後方から名前を呼ばれたので振り返った際、すぐ斜め後ろを前進していた被災者が同僚の左上腕部に胸部を打ち付けられ、通路に強く尻もちをついた。搬送された病院で大腿骨骨折と診断され、6日後に手術を受ける予定で入院したが、2日後に骨折箇所の内出血が悪化し、出血性ショックにより死亡した。	417	3	1～9
2020	2	6 ～ 8	屋外において、ペール缶に入れた木材を燃やすことで暖を取っていたところ、火が被災者に燃え移り、被災したものである。なお、被災して5日後に死亡した。	911	11	1～9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。